



レイヤ 2/3

- [channel-group \(3 ページ\)](#)
- [channel-protocol \(7 ページ\)](#)
- [clear lacp \(8 ページ\)](#)
- [clear pagp \(9 ページ\)](#)
- [clear spanning-tree counters \(10 ページ\)](#)
- [clear spanning-tree detected-protocols \(11 ページ\)](#)
- [debug etherchannel \(12 ページ\)](#)
- [debug lacp \(14 ページ\)](#)
- [debug pagp \(15 ページ\)](#)
- [debug platform pm \(17 ページ\)](#)
- [debug platform uidd \(19 ページ\)](#)
- [debug spanning-tree \(20 ページ\)](#)
- [interface port-channel \(22 ページ\)](#)
- [lacp max-bundle \(24 ページ\)](#)
- [lacp port-priority \(25 ページ\)](#)
- [lacp rate \(27 ページ\)](#)
- [lacp system-priority \(28 ページ\)](#)
- [pagp learn-method \(29 ページ\)](#)
- [pagp port-priority \(31 ページ\)](#)
- [port-channel \(32 ページ\)](#)
- [port-channel auto \(33 ページ\)](#)
- [port-channel load-balance \(34 ページ\)](#)
- [port-channel load-balance extended \(36 ページ\)](#)
- [port-channel min-links \(38 ページ\)](#)
- [rep admin vlan \(39 ページ\)](#)
- [rep block port \(40 ページ\)](#)
- [rep lsl-age-timer \(42 ページ\)](#)
- [rep lsl-retries \(43 ページ\)](#)
- [rep preempt delay \(44 ページ\)](#)

- rep preempt segment (45 ページ)
- rep segment (46 ページ)
- rep stcn (48 ページ)
- show etherchannel (49 ページ)
- show interfaces rep detail (52 ページ)
- show lacp (53 ページ)
- show pagp (58 ページ)
- show platform etherchannel (60 ページ)
- show platform pm (61 ページ)
- show rep topology (62 ページ)
- show udld (64 ページ)
- switchport (68 ページ)
- switchport access vlan (70 ページ)
- switchport mode (71 ページ)
- switchport nonegotiate (74 ページ)
- switchport voice vlan (76 ページ)
- udld (79 ページ)
- udld port (81 ページ)
- udld reset (83 ページ)

channel-group

EtherChannel グループにイーサネットポートを割り当てる、EtherChannel モードをイネーブルにする、またはその両方を行うには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **channel-group** コマンドを使用します。EtherChannel グループからイーサネットポートを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

channel-group | *channel-group-number* **mode** {**active** | **auto** [**non-silent**] | **desirable** [**non-silent**] | **on** | **passive**}
no channel-group

構文の説明

channel-group-number

mode	EtherChannel モードを指定します。
active	無条件に Link Aggregation Control Protocol (LACP) をイネーブルにします。
auto	Port Aggregation Protocol (PAgP) 装置が検出された場合に限り、PAgP をイネーブルにします。
non-silent	(任意) PAgP 対応のパートナーに接続されたとき、インターフェイスを非サイレント動作に設定します。他の装置からのトラフィックが予想されている場合に PAgP モードで auto または desirable キーワードとともに使用されません。
desirable	無条件に PAgP をイネーブルにします。
on	on モードをイネーブルにします。
passive	LACP 装置が検出された場合に限り、LACP をイネーブルにします。

コマンド デフォルト チャネルグループは割り当てることができません。

モードは設定されていません。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

レイヤ 2 の EtherChannel では、チャンネルグループに最初の物理ポートが追加されると、**channel-group** コマンドがポートチャンネルインターフェイスを自動的に作成します。ポートチャンネルインターフェイスを手動で作成するためにグローバル コンフィギュレーション モードで **interface port-channel** コマンドを使用する必要はありません。最初にポートチャンネルインターフェイスを作成する場合は、*channel-group-number* を *port-channel-number* と同じ番号にしても、新しい番号にしてもかまいません。新しい番号を使用した場合、**channel-group** コマンドは自動的に新しいポートチャンネルを作成します。

チャンネルグループの一部である物理ポートに割り当てられた IP アドレスをディセーブルにする必要はありませんが、これをディセーブルにすることを強く推奨します。

interface port-channel コマンドの次に **no switchport** インターフェイス コンフィギュレーションコマンドを使用して、レイヤ 3 のポートチャンネルを作成できます。インターフェイスをチャンネルグループに適用する前に、ポートチャンネルの論理インターフェイスを手動で設定してください。

EtherChannel を設定した後、ポートチャンネルインターフェイスに加えられた設定の変更は、そのポートチャンネルインターフェイスに割り当てられたすべての物理ポートに適用されます。物理ポートに適用された設定の変更は、設定を適用したポートだけに有効です。EtherChannel 内のすべてのポートのパラメータを変更するには、ポートチャンネルインターフェイスに対してコンフィギュレーションコマンドを適用します。たとえば、**spanning-tree** コマンドを使用して、レイヤ 2 EtherChannel をトランクとして設定します。

active モードは、ポートをネゴシエーションステートにします。このステートでは、ポートは LACP パケットを送信することによって、他のポートとのネゴシエーションを開始します。チャンネルは、**active** モードまたは **passive** モードの別のポートグループで形成されます。

auto モードは、ポートをパッシブ ネゴシエーションステートにします。この場合、ポートは受信する PAgP パケットに応答しますが、PAgP パケットネゴシエーションを開始することはありません。チャンネルは、**desirable** モードの別のポートグループでだけ形成されます。**auto** がイネーブルの場合、サイレント動作がデフォルトになります。

desirable モードは、ポートをアクティブネゴシエーションステートにします。この場合、ポートは PAgP パケットを送信することによって、他のポートとのネゴシエーションを開始します。EtherChannel は、**desirable** モードまたは **auto** モードの別のポートグループで形成されます。**desirable** がイネーブルの場合、サイレント動作がデフォルトになります。

auto モードまたは **desirable** モードとともに **non-silent** を指定しなかった場合は、サイレントが指定されているものと見なされます。サイレントモードを設定するのは、PAgP 非対応で、かつほとんどパケットを送信しない装置に **device** を接続する場合です。サイレントパートナーの

例は、トラフィックを生成しないファイルサーバ、またはパケットアナライザなどです。この場合、物理ポート上で稼働している PAgP は、そのポートを動作可能にしません。ただし、PAgP は動作可能で、チャンネルグループにポートを付与したり、伝送用ポートを使用したりできます。リンクの両端はサイレントに設定することはできません。

on モードでは、使用可能な EtherChannel が存在するのは、両方の接続ポートグループが on モードになっている場合だけです。

**注意**

on モードの使用には注意が必要です。これは手動の設定であり、EtherChannel の両端のポートには、同一の設定が必要です。グループの設定を誤ると、パケット損失またはスパニングツリーループが発生することがあります。

passive モードは、ポートをネゴシエーションステートにします。この場合、ポートは受信した LACP パケットに応答しますが、LACP パケットネゴシエーションを開始することはありません。チャンネルは、active モードの別のポートグループでだけ形成されます。

EtherChannel は、PAgP と LACP の両方のモードには設定しないでください。PAgP および LACP を実行している EtherChannel グループは、同一の device、またはスタックにある異なる devices 上で共存できます（クロススタック構成ではできません）。個々の EtherChannel グループは PAgP または LACP のいずれかを実行できますが、相互運用することはできません。

channel-protocol インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用してプロトコルを設定した場合、設定値は、**channel-group** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドによっては上書きされません。

アクティブまたはまだアクティブでない EtherChannel メンバとなっているポートを、IEEE 802.1X ポートとして設定しないでください。EtherChannel ポートで IEEE 802.1X 認証をイネーブルにしようとすると、エラーメッセージが表示され、IEEE 802.1X 認証はイネーブルになりません。

セキュアポートを EtherChannel の一部として、または EtherChannel ポートをセキュアポートとしては設定しないでください。

設定の注意事項の一覧については、このリリースに対応するソフトウェア コンフィギュレーション ガイドの「Configuring EtherChannels」の章を参照してください。

**注意**

物理 EtherChannel ポート上で、レイヤ 3 のアドレスをイネーブルにしないでください。物理 EtherChannel ポート上でブリッジグループを割り当てることは、ループが発生する原因になるため、行わないでください。

この例では、スタック内の 1 つの device に EtherChannel を設定する例を示します。VLAN 10 のスタティックアクセス ポート 2 つを PAgP モード desirable であるチャンネル 5 に割り当てます。

```
デバイス# configure terminal
デバイス(config)# interface range GigabitEthernet 2/0/1 - 2
デバイス(config-if-range)# switchport mode access
```

```
デバイス(config-if-range)# switchport access vlan 10  
デバイス(config-if-range)# channel-group 5 mode desirable  
デバイス(config-if-range)# end
```

この例では、スタック内の 1 つの device に EtherChannel を設定する例を示します。VLAN 10 のスタティックアクセスポート 2 つを LACP モード active であるチャンネル 5 に割り当てます。

```
デバイス# configure terminal  
デバイス(config)# interface range GigabitEthernet 2/0/1 - 2  
デバイス(config-if-range)# switchport mode access  
デバイス(config-if-range)# switchport access vlan 10  
デバイス(config-if-range)# channel-group 5 mode active  
デバイス(config-if-range)# end
```

次の例では、device スタックのクロススタック EtherChannel を設定する方法を示します。LACP パッシブモードを使用して、VLAN 10 内のスタティックアクセスポートとしてスタックメンバ 2 のポートを 2 つ、スタックメンバ 3 のポートを 1 つチャンネル 5 に割り当てます。

```
デバイス# configure terminal  
デバイス(config)# interface range GigabitEthernet 2/0/4 - 5  
デバイス(config-if-range)# switchport mode access  
デバイス(config-if-range)# switchport access vlan 10  
デバイス(config-if-range)# channel-group 5 mode passive  
デバイス(config-if-range)# exit  
デバイス(config)# interface GigabitEthernet 3/0/3  
デバイス(config-if)# switchport mode access  
デバイス(config-if)# switchport access vlan 10  
デバイス(config-if)# channel-group 5 mode passive  
デバイス(config-if)# exit
```

設定を確認するには、**show running-config** 特権 EXEC コマンドを入力します。

channel-protocol

ポート上で使用されるプロトコルを制限してチャネリングを管理するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **channel-protocol** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

channel-protocol {lacp | pagp}
no channel-protocol

構文の説明

lacp Link Aggregation Control Protocol (LACP) で EtherChannel を設定します。

pagp Port Aggregation Protocol (PAgP) で EtherChannel を設定します。

コマンド デフォルト

EtherChannel に割り当てられているプロトコルはありません。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

channel-protocol コマンドは、チャネルを LACP または PAgP に制限するためだけに使用します。**channel-protocol** コマンドを使用してプロトコルを設定する場合、設定は **channel-group** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドで上書きされることはありません。

channel-group インターフェイス コンフィギュレーション コマンドは、EtherChannel のパラメータ設定に使用してください。また、**channel-group** コマンドは、EtherChannel に対しモードを設定することもできます。

EtherChannel グループ上で、PAgP および LACP モードの両方をイネーブルにすることはできません。

PAgP と LACP には互換性がありません。両方ともチャネルの終端は同じプロトコルを使用する必要があります。

クロススタック構成の PAgP を設定できません。

次の例では、EtherChannel を管理するプロトコルとして LACP を指定する方法を示します。

```
デバイス(config-if)# channel-protocol lacp
```

設定を確認するには、**show etherchannel [channel-group-number] protocol** 特権 EXEC コマンドを入力します。

clear lacp

Link Aggregation Control Protocol (LACP) チャネルグループカウンタをクリアするには、特権 EXEC モードで **clear lacp** コマンドを使用します。

clear lacp [*channel-group-number*] **counters**

構文の説明

channel-group-number

counters トラフィックカウンタをクリアします。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.6.1

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

すべてのカウンタをクリアするには、**clear lacp counters** コマンドを使用します。また、指定のチャネルグループのカウンタのみをクリアするには、**clear lacp channel-group-number counters** コマンドを使用します。

次の例では、すべてのチャネルグループ情報をクリアする方法を示します。

```
デバイス# clear lacp counters
```

次の例では、グループ 4 の LACP トラフィックのカウンタをクリアする方法を示します。

```
デバイス# clear lacp 4 counters
```

情報が削除されたことを確認するには、**show lacp counters** または **show lacp channel-group-number counters** 特権 EXEC コマンドを使用します。

clear pagp

Port Aggregation Protocol (PAgP) チャンネルグループ情報をクリアするには、特権 EXEC モードで **clear pagp** コマンドを使用します。

clear pagp [*channel-group-number*] **counters**

構文の説明

channel-group-number

counters トラフィックカウンタをクリアします。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.6.1

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

すべてのカウンタをクリアするには、**clear pagp counters** コマンドを使用します。また、指定のチャンネルグループのカウンタのみをクリアするには、**clear pagp channel-group-number counters** コマンドを使用します。

次の例では、すべてのチャンネルグループ情報をクリアする方法を示します。

デバイス# **clear pagp counters**

次の例では、グループ 10 の PAgP トラフィックのカウンタをクリアする方法を示します。

デバイス# **clear pagp 10 counters**

情報が削除されたことを確認するには、**show pagp** 特権 EXEC コマンドを入力します。

clear spanning-tree counters

スパニングツリーのカウンタをクリアするには、特権EXECモードで **clear spanning-tree counters** コマンドを使用します。

clear spanning-tree counters [**interface** *interface-id*]

構文の説明	interface <i>interface-id</i>	(任意) 指定のインターフェイスのスパニングツリーカウンタをすべてクリアします。有効なインターフェイスとしては、物理ポート、VLAN、ポートチャネルなどがあります。 指定できる VLAN 範囲は 1 ~ 4094 です。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド モード	特権 EXEC	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン *interface-id*が指定されていない場合は、すべてのインターフェイスのスパニングツリーカウンタがクリアされます。

次の例では、すべてのインターフェイスのスパニングツリーカウンタをクリアする方法を示します。

```
デバイス# clear spanning-tree counters
```

clear spanning-tree detected-protocols

devices でプロトコル移行プロセスを再開して、強制的にネイバーと再ネゴシエーションするには、特権 EXEC モードで **clear spanning-tree detected-protocols** コマンドを使用します。

clear spanning-tree detected-protocols [*interface interface-id*]

構文の説明	interface interface-id	(任意) 指定されたインターフェイスでプロトコル移行プロセスを再開します。有効なインターフェイスとしては、物理ポート、VLAN、ポートチャネルなどがあります。 指定できる VLAN 範囲は 1 ~ 4094 です。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド モード	特権 EXEC	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

Rapid Per-VLAN Spanning-Tree Plus (Rapid PVST+) プロトコルまたは Multiple Spanning Tree Protocol (MSTP) が稼働する device は、組み込み済みのプロトコル移行方式をサポートしています。それによって、スイッチはレガシー IEEE 802.1D devices と相互に動作できるようになります。Rapid PVST+ または MSTP device が、プロトコルのバージョンが 0 に設定されているレガシー IEEE 802.1D コンフィギュレーションブリッジプロトコルデータユニット (BPDU) を受信した場合、その device はそのポートで IEEE 802.1D BPDU だけを送信します。マルチスパンニングツリー (MST) device が、レガシー BPDU、別のリージョンに対応する MST BPDU (バージョン 3)、または高速スパンニングツリー (RST) BPDU (バージョン 2) を受信したときは、そのポートがリージョンの境界にあることを検知します。

device は、IEEE 802.1D BPDU を受信しなくなった場合であっても、自動的に Rapid PVST+ モードまたは MSTP モードには戻りません。これは、レガシースイッチが指定スイッチでなければ、リンクから削除されたかどうかを学習できないためです。この状況では、**clear spanning-tree detected-protocols** コマンドを使用します。

次の例では、ポートでプロトコル移行プロセスを再開する方法を示します。

```
デバイス# clear spanning-tree detected-protocols interface gigabitethernet2/0/1
```

debug etherchannel

EtherChannel のデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug etherchannel** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug etherchannel [{all | detail | error | event | idb}]
no debug etherchannel [{all | detail | error | event | idb}]
```

構文の説明

all	(任意) EtherChannel デバッグ メッセージをすべて表示します。
detail	(任意) EtherChannel デバッグ メッセージの詳細を表示します。
error	(任意) EtherChannel エラー デバッグ メッセージを表示します。
event	(任意) EtherChannel イベント メッセージを表示します。
idb	(任意) PAgP インターフェイス記述子ブロック デバッグ メッセージを表示します。

コマンド デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

undebbug etherchannel コマンドは **no debug etherchannel** コマンドと同じです。



(注) **linecard** キーワードは、コマンドラインのヘルプに表示されますが、サポートされていません。

あるスタック上でデバッグをイネーブルにした場合、**active switch**でのみイネーブルになります。スタンバイスイッチでデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **session switch-number** コマンドを使用して **active switch** からセッションを開始します。スタンバイスイッチのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。

active switch で最初にセッションを開始せずにスタンバイスイッチでデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **remote command switch-number LINE** コマンドを使用します。

次の例では、すべての EtherChannel デバッグ メッセージを表示する方法を示します。

```
デバイス# debug etherchannel all
```

次の例では、EtherChannel イベント関連のデバッグ メッセージを表示する方法を示します。

```
デバイス# debug etherchannel event
```

debug lacp

Link Aggregation Control Protocol (LACP) アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug lacp** コマンドを使用します。LACP のデバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug lacp [{all | event | fsm | misc | packet}]
no debug lacp [{all | event | fsm | misc | packet}]
```

構文の説明

all	(任意) LACP デバッグ メッセージをすべて表示します。
event	(任意) LACP イベント デバッグ メッセージを表示します。
fsm	(任意) LACP 有限状態マシン内の変更に関するメッセージを表示します。
misc	(任意) 各種 LACP デバッグ メッセージを表示します。
packet	(任意) 受信および送信 LACP 制御パケットを表示します。

コマンド デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

undebg etherchannel コマンドは **no debug etherchannel** コマンドと同じです。

あるスタック上でデバッグをイネーブルにした場合、**active switch**でのみイネーブルになります。スタンバイスイッチでデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **session switch-number** コマンドを使用して **active switch** からセッションを開始します。スタンバイスイッチのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。

active switch で最初にセッションを開始せずにスタンバイスイッチでデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **remote command switch-number LINE** コマンドを使用します。

次の例では、すべての LACP デバッグ メッセージを表示する方法を示します。

```
デバイス# debug LACP all
```

次の例では、LACP イベントに関連するデバッグ メッセージを表示する方法を示します。

```
デバイス# debug LACP event
```

debug pagp

Port Aggregation Protocol (PAgP) アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug pagp** コマンドを使用します。PAgP のデバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug pagp [{all | dual-active | event | fsm | misc | packet}]
no debug pagp [{all | dual-active | event | fsm | misc | packet}]
```

構文の説明

all	(任意) PAgP デバッグ メッセージをすべて表示します。
dual-active	(任意) デュアル アクティブ検出メッセージを表示します。
event	(任意) PAgP イベントデバッグメッセージを表示します。
fsm	(任意) PAgP 有限状態マシン内の変更に関するメッセージを表示します。
misc	(任意) 各種 PAgP デバッグメッセージを表示します。
packet	(任意) 送受信 PAgP 制御パケットを表示します。

コマンド デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

undebug pagp コマンドは **no debug pagp** コマンドと同じです。

あるスタック上でデバッグをイネーブルにした場合、**active switch**でのみイネーブルになります。スタンバイスイッチでデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **session switch-number** コマンドを使用して **active switch** からセッションを開始します。スタンバイスイッチのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。

active switch で最初にセッションを開始せずにスタンバイスイッチでデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **remote command switch-number LINE** コマンドを使用します。

次の例では、すべての PAgP デバッグ メッセージを表示する方法を示します。

```
デバイス# debug pagp all
```

次の例では、PAgP イベントに関連するデバッグメッセージを表示する方法を示します。

```
デバイス# debug pagp event
```


debug platform pm

プラットフォーム依存ポート マネージャ ソフトウェア モジュールのデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug platform pm** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文の説明	all	すべてのポート マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
	counters	リモートプロシージャコール (RPC) デバッグメッセージのカウンタを表示します。
	errdisable	error-disabled 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
	if-numbers	インターフェイス番号移動イベントデバッグメッセージを表示します。
	link-status	インターフェイス リンク検出イベント デバッグ メッセージを表示します。
	platform	ポート マネージャ関数イベント デバッグ メッセージを表示します。
	pm-vectors	ポート マネージャベクトル関連イベントデバッグメッセージを表示します。
	detail	(任意) ベクトル関数の詳細を表示します。
	vlangs	VLAN 作成および削除イベントデバッグメッセージを表示します。

コマンド デフォルト デバッグはディセーブルです。

コマンド モード 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **undebg platform pm** コマンドは **no debug platform pm** コマンドと同じです。

あるスタック上でデバッグをイネーブルにした場合、**active switch**でのみイネーブルになります。スタンバイスイッチでデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **session**

switch-number コマンドを使用して active switch からセッションを開始します。スタンバイスイッチのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。

active switch で最初にセッションを開始せずにスタンバイスイッチでデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **remote command** *switch-number LINE* コマンドを使用します。

次に、VLAN の作成および削除に関するデバッグ メッセージを表示する例を示します。

```
デバイス# debug platform pm vlans
```

debug platform udd

プラットフォーム依存の単方向リンク検出 (UDLD) ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug platform udd** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文の説明

error (任意) エラー条件デバッグメッセージを表示します。

コマンド デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.6.1

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

undebug platform udd コマンドは **no debug platform udd** コマンドと同じです。

debug spanning-tree

スパニングツリーアクティビティのデバッグをイネーブルにするには、EXEC モードで **debug spanning-tree** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug spanning-tree {all | backbonefast | bpdu | bpdu-opt | config | etherchannel | events |
exceptions | general | ha | mstp | pvst+ | root | snmp | synchronization | switch | uplinkfast}
no debug spanning-tree {all | backbonefast | bpdu | bpdu-opt | config | etherchannel | events |
exceptions | general | mstp | pvst+ | root | snmp | synchronization | switch | uplinkfast}
```

構文の説明

all	スパニングツリーのデバッグ メッセージをすべて表示します。
backbonefast	BackboneFast イベント デバッグ メッセージを表示します。
bpdu	スパニングツリーブリッジプロトコルデータユニット (BPDU) デバッグメッセージを表示します。
bpdu-opt	最適化された BPDU 処理デバッグ メッセージを表示します。
config	スパニングツリー設定変更デバッグ メッセージを表示します。
etherchannel	EtherChannel サポート デバッグ メッセージを表示します。
events	スパニングツリー トポロジ イベント デバッグ メッセージを表示します。
exceptions	スパニングツリー例外デバッグ メッセージを表示します。
general	一般的なスパニングツリーアクティビティデバッグ メッセージを表示します。
ha	高可用性スパニングツリー デバッグ メッセージを表示します。
mstp	Multiple Spanning Tree Protocol (MSTP) イベントをデバッグします。
pvst+	Per VLAN Spanning-Tree Plus (PVST+) イベント デバッグ メッセージを表示します。

root	スパニングツリールートイベントデバッグメッセージを表示します。
snmp	スパニングツリーの Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) 処理デバッグメッセージを表示します。
switch	device シム コマンドデバッグメッセージを表示します。このシムは、一般的なスパニングツリープロトコル (STP) コードと、各 device プラットフォーム固有コードとの間のインターフェイスとなるソフトウェアモジュールです。
synchronization	スパニングツリー同期イベントデバッグメッセージを表示します。
uplinkfast	UplinkFast イベントデバッグメッセージを表示します。

コマンド デフォルト デバッグはディセーブルです。

コマンド モード 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **undebg spanning-tree** コマンドは **no debug spanning-tree** コマンドと同じです。

あるスタック上でデバッグをイネーブルにした場合、**active switch**でのみイネーブルになります。スタンバイスイッチでデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **session switch-number** コマンドを使用して**active switch**からセッションを開始します。スタンバイスイッチのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。

active switchで最初にセッションを開始せずにスタンバイスイッチでデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **remote command switch-number LINE** コマンドを使用します。

次の例では、すべてのスパニングツリーデバッグメッセージを表示する方法を示します。

```
デバイス# debug spanning-tree all
```

interface port-channel

ポートチャンネルにアクセスするか、またはポートチャンネルを作成するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **interface port-channel** コマンドを使用します。ポートチャンネルを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
interface port-channel port-channel-number
no interface port-channel
```

構文の説明

port-channel-number

コマンド デフォルト

ポートチャンネル論理インターフェイスは定義されません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.6.1

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

レイヤ 2 EtherChannel では、物理ポートをチャンネルグループに割り当てる前にポートチャンネル インターフェイスを作成する必要はありません。代わりに、**channel-group** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用できます。このコマンドでは、チャンネルグループが最初の物理ポートを獲得すると、ポートチャンネル論理インターフェイスが自動的に作成されます。最初にポートチャンネル インターフェイスを作成する場合は、*channel-group-number* を *port-channel-number* と同じ番号にしても、新しい番号にしてもかまいません。新しい番号を使用した場合、**channel-group** コマンドは動的に新しいポートチャンネルを作成します。

interface port-channel コマンドの次に **no switchport** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して、レイヤ 3 のポートチャンネルを作成できます。インターフェイスをチャンネルグループに適用する前に、ポートチャンネルの論理インターフェイスを手動で設定してください。

チャンネル グループ内の 1 つのポートチャンネルだけが許可されます。



注意

ポートチャンネル インターフェイスをルーテッドポートとして使用する場合、チャンネルグループに割り当てられた物理ポート上のレイヤ 3 に、アドレスを割り当てないようにしてください。



注意

レイヤ 3 のポートチャンネル インターフェイスとして使用されているチャンネルグループの物理ポート上で、ブリッジグループを割り当てることは、ループ発生の原因になるため行わないようにしてください。スパニングツリーもディセーブルにする必要があります。

interface port-channel コマンドを使用するときは、次のガイドラインに従ってください。

- Cisco Discovery Protocol (CDP) を使用する場合には、これを物理ポートで設定してください。ポートチャンネルインターフェイスでは設定できません。
- EtherChannel のアクティブメンバであるポートを IEEE 802.1X ポートとしては設定しないでください。まだアクティブになっていない EtherChannel のポートで IEEE 802.1X をイネーブルにしても、ポートは EtherChannel に加入しません。

設定の注意事項の一覧については、このリリースに対応するソフトウェア コンフィギュレーションガイドの「Configuring EtherChannels」の章を参照してください。

次の例では、ポートチャンネル番号 5 でポートチャンネルインターフェイスを作成する方法を示します。

```
デバイス(config)# interface port-channel 5
```

設定を確認するには、**show running-config** 特権 EXEC コマンドまたは **show etherchannel channel-group-number detail** 特権 EXEC コマンドを入力します。

lacp max-bundle

ポートチャンネルで許可されるアクティブLACPポートの最大数を定義するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **lacp max-bundle** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
lacp max-bundle max_bundle_number
no lacp max-bundle
```

構文の説明	<i>max_bundle_number</i> ポートチャンネルのアクティブLACPポートの最大数。指定できる範囲は1～8です。デフォルト値は8です。	
コマンド デフォルト	なし	
コマンド モード	インターフェイス コンフィギュレーション	
コマンド履歴	リリース	変更内容
		このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン LACP チャンネル グループは、同じタイプのイーサネット ポートを 16 個まで保有できます。最大 8 個をアクティブに、最大 8 個をホットスタンバイ モードにできます。LACP チャンネルグループに 9 つ以上のポートがある場合、リンクの制御側終端にある **device** は、ポートプライオリティを使用して、チャンネルにバンドルするポートおよびホットスタンバイモードに置くポートを判別します。他の **device** (リンクの非制御側終端) 上のポートプライオリティは無視されます。

lacp max-bundle コマンドには、**port-channel min-links** コマンドで指定される数より大きい数を指定する必要があります。

ホットスタンバイモード (ポートステータスフラグの H で出力に表示) にあるポートを判断するには、**show etherchannel summary** 特権 EXEC コマンドを使用します。

次に、ポートチャンネル 2 で最大 5 個のアクティブ LACP ポートを指定する例を示します。

```
デバイス(config)# interface port-channel 2
デバイス(config-if)# lacp max-bundle 5
```


lacp port-priority

Link Aggregation Control Protocol (LACP) のポートプライオリティを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **lacp port-priority** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

lacp port-priority priority
no lacp port-priority

構文の説明	<i>priority</i> LACP のポートプライオリティ。指定できる範囲は 1～65535 です。	
コマンド デフォルト	デフォルトは 32768 です。	
コマンド モード	インターフェイス コンフィギュレーション	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **lacp port-priority** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドは、LACP チャネルグループに 9 つ以上のポートがある場合、バンドルされるポートと、ホットスタンバイモードに置かれるポートを判別します。

LACP チャネルグループは、同じタイプのイーサネットポートを 16 個まで保有できます。最大 8 つのポートを active モードに、最大 8 つのポートを standby モードにできます。

ポートプライオリティの比較では、数値が小さいほどプライオリティが高くなります。LACP チャネルグループに 9 つ以上のポートがある場合、LACP ポートプライオリティの数値が小さい（つまり、高いプライオリティ値の）8 つのポートがチャネルグループにバンドルされ、それより低いプライオリティのポートはホットスタンバイモードに置かれます。LACP ポートプライオリティが同じポートが 2 つ以上ある場合（たとえば、そのいずれもデフォルト設定の 65535 に設定されている場合）、ポート番号の内部値によりプライオリティが決定されます。



(注) LACP リンクを制御する device 上にポートがある場合に限り、LACP ポートプライオリティは有効です。リンクを制御する device の判別については、**lacp system-priority** グローバル コンフィギュレーション コマンドを参照してください。

LACP ポートプライオリティおよび内部ポート番号値を表示するには、**show lacp internal** 特権 EXEC コマンドを使用します。

物理ポート上での LACP の設定については、このリリースに対応する構成ガイドを参照してください。

次の例では、ポートで LACP ポートプライオリティを設定する方法を示します。

```
デバイス# interface gigabitethernet2/0/1  
デバイス(config-if)# lACP port-priority 1000
```

設定を確認するには、**show lACP [channel-group-number] internal** 特権 EXEC コマンドを入力します。

lacp rate

Link Aggregation Control Protocol (LACP) 制御パケットが LACP がサポートされているインターフェイスに入力されるレートを設定するには、インターフェイスコンフィギュレーションモードで **lacp rate** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

lacp rate {normal | fast}
no lacp rate

構文の説明

normal LACP 制御パケットが通常レート（リンクのバンドル後、30 秒間隔）で入力されるように指定します。

fast LACP 制御パケットが高速レート（1 秒に 1 回）で入力されるように指定します。

コマンド デフォルト

制御パケットのデフォルトの入力レートは、リンクがバンドルされた後、30 秒間隔です。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

コマンド履歴

リリース

変更内容

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

LACP タイムアウトの期間を変更するには、このコマンドを使用します。シスコスイッチの LACP タイムアウト値はインターフェイスで LACP レートの 3 倍に設定されます。**lacp rate** コマンドを使用して、スイッチの LACP タイムアウト値として 90 秒または 3 秒のいずれかを選択できます。

このコマンドは、LACP がイネーブルになっているインターフェイスでのみサポートされません。

次に、インターフェイス GigabitEthernet 0/0 の高速（1 秒）入力レートを指定する例を示します。

```
デバイス(config)# interface gigabitEthernet 0/0
デバイス(config-if)# lacp rate fast
```

lACP system-priority

Link Aggregation Control Protocol (LACP) のシステムプライオリティを設定するには、deviceのグローバル コンフィギュレーション モードで **lACP system-priority** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

lACP system-priority priority
no lACP system-priority

構文の説明

priority LACP のシステムプライオリティ。指定できる範囲は1～65535です。

コマンド デフォルト

デフォルトは 32768 です。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

lACP system-priority コマンドでは、ポートプライオリティを制御する LACP リンクの device が判別されます。

LACP チャネルグループは、同じタイプのイーサネットポートを 16 個まで保有できます。最大 8 つのポートを active モードに、最大 8 つのポートを standby モードにできます。LACP チャネルグループに 9 つ以上のポートがある場合、リンクの制御側終端にある device は、ポートプライオリティを使用して、チャネルにバンドルするポートおよびホットスタンバイモードに置くポートを判別します。他の device (リンクの非制御側終端) 上のポートプライオリティは無視されます。

プライオリティの比較においては、数値が小さいほどプライオリティが高くなります。したがって、LACP システムプライオリティの数値が小さい (プライオリティ値の高い) システムが制御システムとなります。どちらの devices も同じ LACP システムプライオリティである場合 (たとえば、どちらもデフォルト設定の 32768 が設定されている場合)、LACP システム ID (device の MAC アドレス) により制御する device が判別されます。

lACP system-priority コマンドは、device 上のすべての LACP EtherChannel に適用されます。

ホットスタンバイモード (ポートステートフラグの H で出力に表示) にあるポートを判断するには、**show etherchannel summary** 特権 EXEC コマンドを使用します。

次の例では、LACP のシステムプライオリティを設定する方法を示します。

```
デバイス(config)# lACP system-priority 20000
```

設定を確認するには、**show lACP sys-id** 特権 EXEC コマンドを入力します。

pagp learn-method

EtherChannelポートから受信した着信パケットの送信元アドレスを学習するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **pagp learn-method** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
pagp learn-method {aggregation-port | physical-port}
no pagp learn-method
```

構文の説明

aggregation-port 論理ポートチャネルでのアドレスラーニングを指定します。device は、EtherChannel のいずれかのポートを使用して送信元にパケットを送信します。この設定は、デフォルトです。集約ポートラーニングの場合、どの物理ポートにパケットが届くかは重要ではありません。

physical-port EtherChannel内の物理ポートでのアドレスラーニングを指定します。device は、送信元アドレスを学習したのと同じ EtherChannel 内のポートを使用して送信元へパケットを送信します。チャネルのもう一方の終端では、特定の宛先 MAC または IP アドレスに対してチャネル内の同じポートが使用されます。

コマンドデフォルト

デフォルトは、aggregation-port（論理ポートチャネル）です。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

学習方式は、リンクの両端で同一の設定にする必要があります。

コマンドラインインターフェイス（CLI）で **physical-port** キーワードが指定された場合でも、device がサポートするのは集約ポートでのアドレスラーニングのみです。 **pagp learn-method** および **pagp port-priority** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドは device のハードウェアには影響を及ぼしませんが、物理ポートによるアドレスラーニングのみをサポートしているデバイスと PAgP の相互運用性を確保するために必要です。

deviceのリンクパートナーが物理ラーナーである場合、 **pagp learn-method physical-port** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して物理ポートラーナーとして device を設定することを推奨します。また、 **port-channel load-balance src-mac** グローバルコンフィギュレーション コマンドを使用して、送信元 MAC アドレスに基づいて負荷分散方式を設定することを推奨します。 **pagp learn-method** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドは、このような場合にのみ使用してください。

次の例では、EtherChannel 内の物理ポート上のアドレスを学習するように学習方式を設定する方法を示します。

```
デバイス(config-if)# pagp learn-method physical-port
```

次の例では、EtherChannel 内のポート チャンネル上のアドレスを学習するように学習方式を設定する方法を示します。

```
デバイス(config-if)# pagp learn-method aggregation-port
```

設定を確認するには、**show running-config** 特権 EXEC コマンドまたは **show pagp channel-group-number internal** 特権 EXEC コマンドを入力します。

pagp port-priority

EtherChannel を経由してすべての Port Aggregation Protocol (PAgP) トラフィックが送信されるポートを選択するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **pagp port-priority** コマンドを使用します。EtherChannel で使用されていないすべてのポートがホットスタンバイモードにあり、現在選択されているポートやリンクに障害が発生した場合、これらのポートは稼働状態にできません。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

pagp port-priority priority
no pagp port-priority

構文の説明	<i>priority</i> プライオリティ番号。有効な範囲は0～255です。				
コマンド デフォルト	デフォルト値は 128 です。				
コマンド モード	インターフェイス コンフィギュレーション				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Everest 16.6.1</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。				

使用上のガイドライン 同じ EtherChannel 内で動作可能でメンバーシップを持つ物理ポートの中で最も高いプライオリティを持つポートが、PAgP 送信用として選択されます。

コマンドラインインターフェイス (CLI) で **physical-port** キーワードが指定された場合でも、**device** がサポートするのは集約ポートでのアドレスラーニングのみです。 **pagp learn-method** および **pagp port-priority** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドは **device** のハードウェアには影響を及ぼしませんが、Catalyst 1900 スイッチなど、物理ポートによるアドレスラーニングのみをサポートしているデバイスと PAgP の相互運用性を確保するために必要です。

device のリンクパートナーが物理ラーナーである場合、 **pagp learn-method physical-port** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して物理ポートラーナーとして **device** を設定することを推奨します。また、 **port-channel load-balance src-mac** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、送信元 MAC アドレスに基づいて負荷分散方式を設定することを推奨します。 **pagp learn-method** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドは、このような場合にのみ使用してください。

次の例では、ポート プライオリティを 200 に設定する方法を示します。

```
デバイス(config-if)# pagp port-priority 200
```

設定を確認するには、**show running-config** 特権 EXEC コマンドまたは **show pagp channel-group-number internal** 特権 EXEC コマンドを入力します。

port-channel

自動作成された EtherChannel を手動チャンネルに変換して、設定を EtherChannel に追加するには、特権 EXEC モードで **port-channel** コマンドを使用します。

port-channel { *channel-group-number* **persistent** | **persistent** }

構文の説明

channel-group-number チャンネルグループ番号。指定できる範囲は 1 ～ 128 です。

persistent 自動作成された EtherChannel を手動チャンネルに変更し、EtherChannel への設定の追加を許可します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.6.1

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

EtherChannel の情報を表示するには、**show etherchannel summary** 特権 EXEC コマンドを使用します。

例

この例では、自動作成された EtherChannel を手動チャンネルに変換する方法を示します。

```
デバイス# port-channel 1 persistent
```


port-channel auto

スイッチ上の Auto-LAG 機能をグローバルで有効にするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **port-channel auto** コマンドを使用します。スイッチ上の Auto-LAG 機能をグローバルで無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

port-channel auto
no port-channel auto

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトでは、Auto-LAG 機能がグローバルで無効にされ、すべてのポートインターフェイスで有効になっています。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE 3.7.2E	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

EtherChannel が自動作成されたかどうかを確認するには、**show etherchannel auto** 特権 EXEC コマンドを使用します。

例

次に、スイッチの Auto-LAG 機能を有効にする例を示します。

```
デバイス(config)# port-channel auto
```

port-channel load-balance

EtherChannel のポート間での負荷分散方式を設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **port-channel load-balance** コマンドを使用します。ロードバランシングメカニズムをデフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
port-channel load-balance {dst-ip|dst-mac|dst-mixed-ip-port|dst-port|extended|src-dst-ip|src-dst-mac|src-dst-mixed-ip-port|src-dst-port|src-ip|src-mac|src-mixed-ip-port|src-port}
no port-channel load-balance
```

構文の説明

dst-ip	宛先ホストの IP アドレスに基づいた負荷分散を指定します。
dst-mac	宛先ホストの MAC アドレスに基づいた負荷分散を指定します。同一の宛先に対するパケットは同一のポートに送信され、異なる宛先のパケットはチャンネルの異なるポートに送信されます。
dst-mixed-ip-port	宛先 IPv4 または IPv6 アドレスと TCP/UDP (レイヤ 4) ポート番号に基づいて負荷分散を指定します。
dst-port	宛先 TCP/UDP (レイヤ 4) と IPv4 と IPv6 の両方のポート番号に基づいて負荷分散を指定します。
extended	EtherChannel のポート間の拡張ロードバランス方式を設定します。 port-channel load-balance extended コマンドを参照してください。
src-dst-ip	送信元および宛先ホストの IP アドレスに基づいて負荷分散を指定します。
src-dst-mac	送信元および宛先ホストの MAC アドレスに基づいた負荷分散を指定します。
src-dst-mixed-ip-port	送信元および宛先のホスト IP アドレスと TCP/UDP (レイヤ 4) ポート番号に基づいて負荷分散を指定します。
src-dst-port	送信元および宛先の TCP/UDP (レイヤ 4) ポート番号に基づいて負荷分散を指定します。
src-ip	送信元ホストの IP アドレスに基づいた負荷分散を指定します。
src-mac	送信元の MAC アドレスに基づいた負荷分散を指定します。異なるホストからのパケットは、チャンネルで異なるポートを使用し、同一のホストからのパケットは同一のポートを使用します。
src-mixed-ip-port	送信元ホスト IP アドレスと TCP/UDP (レイヤ 4) ポート番号に基づいて負荷分散を指定します。
src-port	TCP/UDP (レイヤ 4) ポート番号に基づいて負荷分散を指定します。

コマンドデフォルト デフォルトは **src-mac** です。

コマンドモード グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 設定を確認するには、**show running-config** 特権 EXEC コマンドまたは **show etherchannel load-balance** 特権 EXEC コマンドを入力します。

例

次の例では、負荷分散方式を **dst-mac** に設定する方法を示します。

```
デバイス(config)# port-channel load-balance dst-mac
```

port-channel load-balance extended

EtherChannel のポート間での負荷分散方式の組み合わせを設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **port-channel load-balance extended** コマンドを使用します。拡張ロードバランシングメカニズムをデフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
port-channel load-balance extended[{dst-ip | dst-mac | dst-port | ipv6-label | l3-proto | src-ip | src-mac | src-port}]
```

```
no port-channel load-balance extended
```

構文の説明

dst-ip	(任意) 宛先ホストの IP アドレスに基づいて負荷分散を指定します。
dst-mac	(任意) 宛先ホストの MAC アドレスに基づいて負荷分散を指定します。同一の宛先に対するパケットは同一のポートに送信され、異なる宛先のパケットはチャンネルの異なるポートに送信されます。
dst-port	(任意) IPv4 と IPv6 両方の宛先 TCP/UDP (レイヤ 4) ポート番号に基づいて負荷分散を指定します。
ipv6-label	(任意) 送信元 MAC アドレスと IPv6 フローラベルに基づいて負荷分散を指定します。
l3-proto	(任意) 送信元 MAC アドレスとレイヤ 3 プロトコルに基づいて負荷分散を指定します。
src-ip	(任意) 送信元ホストの IP アドレスに基づいて負荷分散を指定します。
src-mac	(任意) 送信元の MAC アドレスに基づいて負荷分散を指定します。異なるホストからのパケットは、チャンネルで異なるポートを使用し、同一のホストからのパケットは同一のポートを使用します。
src-port	(任意) TCP/UDP (レイヤ 4) ポート番号に基づいて負荷分散を指定します。

コマンド デフォルト デフォルトは **src-mac** です。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン どのような場合にこれらの転送方式を使用するかについては、このリリースのを参照してください。

設定を確認するには、**show running-config** 特権 EXEC コマンドまたは **show etherchannel load-balance** 特権 EXEC コマンドを入力します。

例

次に、拡張負荷分散方式を設定する例を示します。

```
デバイス(config)# port-channel load-balance extended dst-ip dst-mac src-ip
```

port-channel min-links

ポートチャンネルがアクティブになるように、リンクアップ状態で、EtherChannel にバンドルする必要がある LACP ポートの最小数を定義するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **port-channel min-links** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

port-channel min-links *min_links_number*
no port-channel min-links

構文の説明

min_links_number ポートチャンネル内のアクティブな LACP ポートの最小数。指定できる範囲は 2 ~ 8 です。デフォルトは 1 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース

変更内容

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

LACP チャンネルグループは、同じタイプのイーサネット ポートを 16 個まで保有できます。最大 8 個をアクティブに、最大 8 個をホットスタンバイ モードにできます。LACP チャンネルグループに 9 つ以上のポートがある場合、リンクの制御側終端にある **device** は、ポートプライオリティを使用して、チャンネルにバンドルするポートおよびホットスタンバイモードに置くポートを判別します。他の **device** (リンクの非制御側終端) 上のポートプライオリティは無視されます。

port-channel min-links コマンドには、**lACP max-bundle** コマンドで指定される数より小さい数を指定する必要があります。

ホットスタンバイモード (ポートステートフラグの H で出力に表示) にあるポートを判断するには、**show etherchannel summary** 特権 EXEC コマンドを使用します。

次に、ポートチャンネル 2 がアクティブになる前に、少なくとも 3 個のアクティブな LACP ポートを指定する例を示します。

```
デバイス(config)# interface port-channel 2
デバイス(config-if)# port-channel min-links 3
```

rep admin vlan

Resilient Ethernet Protocol (REP) の REP 管理 VLAN を設定して、ハードウェアフラッドレイヤ (HFL) メッセージを送信するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **rep admin vlan** コマンドを使用します。VLAN 1 が管理 VLAN になるようにデフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
rep admin vlan vlan-id
no rep admin vlan
```

構文の説明

vlan-id 48 ビットスタティック MAC アドレス。

コマンド デフォルト

管理 VLAN のデフォルト値は VLAN 1 です。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース

変更内容

このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

REP 管理 VLAN の範囲は 2 ~ 4094 です。

管理 VLAN を設定しない場合、デフォルト VLAN は VLAN 1 です。デフォルトの VLAN 1 は常に設定されています。ルータとセグメント上には管理 VLAN は 1 つだけとなります。

設定を確認するには、**show interfaces rep detail** 特権 EXEC コマンドを入力します。

次に、VLAN 100 を REP 管理 VLAN として設定する例を示します。

```
デバイス(config)# rep admin vlan 100
```

rep block port

REPプライマリエッジポートでREP VLAN ロードバランシングを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **rep block port** コマンドを使用します。VLAN 1 が管理 VLAN になるようにデフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
rep block port {id port-id | neighbor-offset | preferred} vlan {vlan-list | all}
no rep block port {id port-id | neighbor-offset | preferred}
```

構文の説明

id port-id	REP を有効にすると自動的に生成される一意のポート ID を入力して VLAN ブロッキング代替ポートを指定します。REP ポート ID は、16 文字の 16 進数値です。特権 EXEC モードで show interface interface-id rep detail コマンドを入力すると、インターフェイスのポート ID を表示できます。
neighbor-offset	ネイバーのオフセット番号を入力することで、VLAN ブロック代替ポートを識別します。指定できる範囲は -256 ~ +256 で、値 0 は無効です。
preferred	すでに VLAN ロードバランシングの優先代替ポートとして指定されている通常セグメントポートを選択します。
vlan	ブロックされる VLAN を指定します。
vlan-list	表示される VLAN ID または VLAN ID の範囲。ブロックする VLAN ID (1 ~ 4094 の範囲) を入力するか、ブロックする LAN ID の範囲または連続番号 (1-3、22、41-44 など) を入力します。
all	すべての VLAN をブロックします。

コマンド デフォルト

特権 EXEC モードで **rep preempt segment** コマンドを入力した後のデフォルト動作では (手動プリエンプションの場合)、プライマリエッジポートですべての VLAN をブロックします。この動作は、**rep block port** コマンドを設定するまで継続されます。

プライマリ エッジ ポートで代替ポートを判別できない場合は、デフォルトのアクションはプリエンプションなし、および VLAN ロードバランシングなしです。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

コマンド履歴

リリース	変更内容
	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、REP プライマリ エッジ ポート上に入力する必要があります。

オフセット番号を入力して代替ポートを選択する場合、オフセット番号はエッジポートのダウンストリーム ネイバー ポートを識別します。プライマリ エッジ ポートはオフセット番号 1 で

す。1 を超える正数はプライマリ エッジ ポートのダウンストリーム ネイバーを識別します。負の番号は、セカンダリ エッジ ポート (オフセット番号-1) とダウンストリーム ネイバーを識別します。番号 1 はプライマリ エッジ ポート自体のオフセット番号なので、オフセット番号 1 は入力しないでください。

インターフェイス コンフィギュレーション モードで、**rep preempt delay seconds** コマンドを入力することでプリエンブション遅延時間を設定しており、リンク障害とリカバリが発生した場合、別のリンク障害が発生することなく設定したプリエンブション期間が経過すると、VLAN ロードバランシングが開始されます。ロードバランシング設定で指定された代替ポートは、設定された VLAN をブロックし、その他すべてのセグメント ポートのブロックを解除します。プライマリ エッジ ポートで VLAN バランシングの代替ポートを決定できない場合、デフォルトのアクションはプリエンブションなしになります。

セグメント内のポートごとに、一意のポート ID が割り当てられます。ポートのポート ID を判別するには、特権 EXEC モードで **show interfaces interface-id rep detail** コマンドを入力します。

次に、REP VLAN ロードバランシングを設定する例を示します。

```
デバイス(config)# interface TenGigabitEthernet 4/1
デバイス(config-if)# rep block port id 0009001818D68700 vlan 1-100
```

rep lsl-age-timer

REP リンクステータスレイヤ (LSL) のエージアウトタイマー値を設定するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **rep lsl-age-timer** コマンドを使用します。デフォルトのエージアウトタイマー値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
rep lsl-age-timer milliseconds
no rep lsl-age-timer milliseconds
```

構文の説明	<i>milliseconds</i> ミリ秒単位の REP LSL エージアウトタイマー値。範囲は 120～10000 ミリ秒で、40 ミリ秒の倍数を指定します。
-------	--

コマンド デフォルト	デフォルトの LSL エージアウトタイマー値は 5 ミリ秒です。
------------	----------------------------------

コマンド モード	インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)
----------	----------------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
		このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン **rep lsl-age-timer** コマンドは、REP LSL エージアウトタイマー値を設定するために使用されます。REP の設定可能なタイマーを設定する際には、最初に REP LSL の再試行回数を設定し、その後、REP LSL のエージアウトタイマー値を設定することを推奨します。

次に、REP LSL エージアウトタイマー値を設定する例を示します。

```
デバイス(config)# interface TenGigabitEthernet 4/1
デバイス(config-if)# rep segment 1 edge primary
デバイス(config-if)# rep lsl-age-timer 2000
```

rep lsl-retries

REP リンクステータスレイヤ (LSL) の再試行回数を設定するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **rep lsl-retries** コマンドを使用します。デフォルトの再試行回数に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
rep lsl-retries number-of-retries
no rep lsl-retries number-of-retries
```

構文の説明	<i>number-of-retries</i> LSL の再試行回数。再試行回数の範囲は、3 ~ 10 です。	
コマンド デフォルト	デフォルトの再試行回数は 5 回です。	
コマンド モード	インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
		このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン **rep lsl-retries** コマンドは、REP リンクを無効にする前に再試行回数を設定するために使用されます。REP の設定可能なタイマーを設定する際には、最初に REPLSL の再試行回数を設定し、その後、REP LSL のエージアウト タイマー値を設定することを推奨します。

次に、REP LSL の再試行回数を設定する例を示します。

```
デバイス(config)# interface TenGigabitEthernet 4/1
デバイス(config-if)# rep segment 2 edge primary
```

rep preempt delay

セグメントポートの障害およびリカバリの発生後、REP VLAN ロードバランシングがトリガーされるまでの待機時間を設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **rep preempt delay** コマンドを使用します。設定した遅延を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

rep preempt delay seconds
no rep preempt delay

構文の説明

seconds REP プリエンプションを遅延する秒数です。範囲は 15 ～ 300 秒です。デフォルトは遅延なしの手動プリエンブションです。

コマンド デフォルト

REP プリエンプション遅延は設定されていません。デフォルトは遅延なしの手動プリエンブションです。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

コマンド履歴

リリース

変更内容

このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、REP プライマリ エッジ ポート上に入力する必要があります。

リンク障害とリカバリ後に自動的に VLAN ロードバランシングをトリガーする場合、このコマンドを入力してプリエンブション時間遅延を設定する必要があります。

VLAN ロードバランシングが設定されている場合、セグメントポート障害とリカバリの後、VLAN ロードバランシングが発生する前に REP プライマリ エッジポートで遅延タイマーが起動されます。各リンク障害が発生した後にタイマーが再起動することに注意してください。タイマーが満了となると、(**rep block port** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して設定された) VLAN ロードバランシングを実行するように REP プライマリエッジが代替ポートに通知し、新規トポロジ用のセグメントが準備されます。設定された VLAN リストは代替ポートでブロックされ、他のすべての VLAN はプライマリ エッジポートでブロックされます。

設定を確認するには、**show interfaces rep** 特権 EXEC コマンドを入力します。

次に、プライマリ エッジ ポートで REP プリエンプション時間遅延を 100 秒に設定する例を示します。

```
デバイス(config)# interface TenGigabitEthernet 4/1
デバイス(config-if)# rep preempt delay 100
```

rep preempt segment

セグメントで REP VLAN ロードバランシングを手動で開始するには、特権 EXEC モードで **rep preempt segment** コマンドを使用します。

rep preempt segment *segment-id*

構文の説明

segment-id REP セグメントの ID です。有効な範囲は 1 ~ 1024 です。

コマンド デフォルト

デフォルト動作は手動プリエンプションです。

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ルータのプライマリ エッジ ポートがあるセグメントで、次のコマンドを入力します。

VLAN ロードバランシングのプリエンプションを設定する前に、他のすべてのセグメントの設定が完了していることを確認してください。VLAN ロードバランシングのプリエンプションはネットワークを中断する可能性があるため、**rep preempt segment** *segment-id* コマンドを入力すると、このコマンドの実行前に確認メッセージが表示されます。

プライマリエッジポートで、インターフェイスコンフィギュレーションモードから **rep preempt delay** *seconds* コマンドを入力せずに、プリエンプション時間遅延を設定する場合、デフォルト設定はセグメントでの VLAN ロードバランシングの手動トリガーです。 **show rep topology** 特権 EXEC コマンドを使用して、セグメント内のどのポートがプライマリエッジポートであるかを確認します。

VLAN ロードバランシングを設定しない場合、このコマンドを入力するとデフォルトの動作になります（プライマリ エッジ ポートですべての VLAN がブロックされます）。

REP プライマリエッジポートのインターフェイス コンフィギュレーション モードで **rep block port** コマンドを入力して VLAN ロードバランシングを設定してから、手動でプリエンプションを開始します。

次に、セグメント 100 で REP プリエンプションを手動でトリガーする例を示します。

```
デバイス# rep preempt segment 100
```

rep segment

インターフェイスで REP を有効にし、そのインターフェイスにセグメント ID を割り当てるには、インターフェイスコンフィギュレーションモードで **repsegment** コマンドを使用します。インターフェイスで REP を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

rep segment *segment-id* [**edge** [**no-neighbor**] [**primary**]] [**preferred**]
no rep segment

構文の説明

segment-id	REP が有効になっているセグメント。セグメント ID をインターフェイスに割り当てます。有効な範囲は 1 ~ 1024 です。
edge	(任意) エッジポートとしてポートを設定します。各セグメントにあるエッジポートは 2 つだけです。
no-neighbor	(任意) セグメント エッジを外部 REP ネイバーなしに指定します。
primary	(任意) プライマリ エッジポート (VLAN ロード バランシングを設定できるポート) としてポートを指定します。1 セグメント内のプライマリ エッジポートは 1 つだけです。
preferred	(任意) ポートを優先代替ポートまたは VLAN ロード バランシングの優先ポートに指定します。 (注) ポートを優先に設定しても、代替ポートになるとは限りません。同等に可能性のあるポートよりやや可能性が高くなるだけです。通常、前に障害が発生したポートが、代替ポートとなります。

コマンド デフォルト

REP はインターフェイスでディセーブルです。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

コマンド履歴

リリース	変更内容
	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

REP ポートは、レイヤ 2 IEEE 802.1Q または 802.1AD ポートのいずれかである必要があります。各 REP セグメント上には、プライマリ エッジポートと、セカンダリ エッジポートとして機能するポートの、2 種類のエッジポートを設定しなければいけません。

REP がルータの 2 つのポートでイネーブルの場合、両方のポートが通常セグメントポートまたはエッジポートである必要があります。REP ポートは以下の規則に従います。

- 1 つのルータ上で 1 つのポートだけがセグメントで設定される場合、このポートは 1 つのエッジポートである必要があります。

- 1つのルータ上で2つのポートが同じセグメントに属する場合、どちらのポートも通常セグメントポートである必要があります。
- 1つのルータ上で2つのポートが同じセグメントに属し、1つがエッジポートとして設定され、もう1つが通常のセグメントポートとして設定された場合（設定ミス）、エッジポートは通常のセグメントポートとして処理されます。

REP インターフェイスはブロック状態で起動し、安全にブロック解除可能と通知されるまでブロック状態のままになります。突然の接続切断を避けるために、これを意識しておく必要があります。

REP がインターフェイスでイネーブルの場合、デフォルトでは通常のセグメントポートであるポートに対してイネーブルになります。

次に、通常（非エッジ）セグメントポートで REP を有効にする例を示します。

```
デバイス(config)# interface TenGigabitEthernet 4/1
デバイス(config-if)# rep segment 100
```

次に、ポートで REP を有効にし、そのポートを REP プライマリ エッジポートとして指定する例を示します。

```
デバイス(config)# interface TenGigabitEthernet 4/1
デバイス(config-if)# rep segment 100 edge primary
```

次に、ポートで REP を有効にし、そのポートを REP セカンダリ エッジポートとして指定する例を示します。

```
デバイス(config)# interface TenGigabitEthernet 4/1
デバイス(config-if)# rep segment 100 edge
```

次に、REP をネイバーなしのエッジポートとして有効にする例を示します。

```
デバイス(config)# interface TenGigabitEthernet 4/1
デバイス(config-if)# rep segment 1 edge no-neighbor primary
```

rep stcn

セグメントトポロジ変更通知 (STCN) を他のインターフェイスまたは他のセグメントに送信するように REP エッジポートを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **rep stcn** コマンドを使用します。インターフェイスまたはセグメントへの STCN の送信を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
rep stcn {interface interface-id | segment segment-id-list}
no rep stcn {interface | segment}
```

構文の説明

interface interface-id STCNを受信する物理インターフェイスまたはポートチャンネルを指定します。

segment segment-id-list STCNを受信する1つのREPセグメントまたはセグメントの一覧を指定します。セグメントの範囲は1～1024です。また、一連のセグメント (たとえば3～5、77、100) を設定することもできます。

コマンド デフォルト

他のインターフェイスおよびセグメントへの STCN 送信は、無効になっています。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

コマンド履歴

リリース

変更内容

このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、1つ以上のセグメントまたは1つのインターフェイスに STCN を送信先するために、セグメントエッジポートで入力します。設定を確認するには、**show interfaces rep detail** 特権 EXEC コマンドを入力します。

次に、セグメント 25～50 に STCN を送信するように REP エッジポートを設定する例を示します。

```
デバイス(config)# interface TenGigabitEthernet 4/1
デバイス(config-if)# rep stcn segment 25-50
```


show etherchannel

チャンネルの EtherChannel 情報を表示するには、ユーザ EXEC モードで **show etherchannel** コマンドを使用します。

```
show etherchannel [{channel-group-number | {detail | port | port-channel | protocol | summary
}}] | [{detail | load-balance | port | port-channel | protocol | summary}]
```

構文の説明

channel-group-number

detail	(任意) 詳細な EtherChannel 情報を表示します。
load-balance	(任意) ポート チャンネル内のポート間の負荷分散方式、またはフレーム配布方式を表示します。
port	(任意) EtherChannel ポートの情報を表示します。
port-channel	(任意) ポート チャンネル情報を表示します。
protocol	(任意) EtherChannel で使用されるプロトコルを表示します。
summary	(任意) 各チャンネル グループのサマリーを 1 行で表示します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

ユーザ EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

チャンネル グループ番号を指定しない場合は、すべてのチャンネル グループが表示されます。

出力では、パッシブ ポート リスト フィールドはレイヤ 3 のポート チャンネルだけで表示されません。このフィールドは、まだ起動していない物理ポートがチャンネルグループ内で設定されていること（および間接的にチャンネルグループ内で唯一のポート チャンネルであること）を意味します。

次に、**show etherchannel channel-group-number detail** コマンドの出力例を示します。

```
デバイス> show etherchannel 1 detail
Group state = L2
Ports: 2   Maxports = 16
Port-channels: 1 Max Port-channels = 16
Protocol:   LACP
           Ports in the group:
```

```

-----
Port: Gi1/0/1
-----
Port state      = Up Mstr In-Bndl
Channel group   = 1          Mode = Active          Gcchange = -
Port-channel    =          PolGC = -          Pseudo port-channel = Pol
Port index      =          0Load = 0x00          Protocol = LACP

Flags: S - Device is sending Slow LACPDU      F - Device is sending fast LACPDU
      A - Device is in active mode.           P - Device is in passive mode.

Local information:

Port      Flags  State  LACP port  Admin  Oper  Port  Port
          SA    bndl   Priority   Key    Key   Number State
Gi1/0/1   SA    bndl   32768     0x1    0x1   0x101 0x3D
Gi1/0/2   A     bndl   32768     0x0    0x1   0x0    0x3D

Age of the port in the current state: 01d:20h:06m:04s

Port-channels in the group:
-----

Port-channel: Pol (Primary Aggregator)

Age of the Port-channel = 01d:20h:20m:26s
Logical slot/port = 10/1          Number of ports = 2
HotStandBy port = null
Port state = Port-channel Ag-Inuse
Protocol = LACP

Ports in the Port-channel:

Index  Load  Port      EC state      No of bits
-----+-----+-----+-----+-----
0      00    Gi1/0/1   Active        0
0      00    Gi1/0/2   Active        0

Time since last port bundled: 01d:20h:24m:44s Gi1/0/2

```

次に、**show etherchannel channel-group-number summary** コマンドの出力例を示します。

```

デバイス> show etherchannel 1 summary
Flags: D - down P - in port-channel
      I - stand-alone s - suspended
      H - Hot-standby (LACP only)
      R - Layer3 S - Layer2
      u - unsuitable for bundling
      U - in use f - failed to allocate aggregator
      d - default port

Number of channel-groups in use: 1
Number of aggregators: 1

```

```

Group  Port-channel  Protocol  Ports
-----+-----+-----+-----
1      Pol (SU)      LACP      Gi1/0/1 (P) Gi1/0/2 (P)

```

次に、**show etherchannel channel-group-number port-channel** コマンドの出力例を示します。

```
デバイス> show etherchannel 1 port-channel
Port-channels in the group:
-----
Port-channel: Po1 (Primary Aggregator)
-----
Age of the Port-channel = 01d:20h:24m:50s
Logical slot/port = 10/1 Number of ports = 2
Logical slot/port = 10/1 Number of ports = 2
Port state = Port-channel Ag-Inuse
Protocol = LACP

Ports in the Port-channel:

Index  Load  Port  EC state          No of bits
-----+-----+-----+-----+-----
  0     00   Gi1/0/1 Active          0
  0     00   Gi1/0/2 Active          0

Time since last port bundled: 01d:20h:24m:44s Gi1/0/2
```

次に、**show etherchannel protocol** コマンドの出力例を示します。

```
デバイス# show etherchannel protocol
Channel-group listing:
-----
Group: 1
-----
Protocol: LACP
Group: 2
-----
Protocol: PAgP
```

show interfaces rep detail

すべてのインターフェイスまたは指定されたインターフェイスの詳細な REP 設定とステータス（管理 VLAN を含む）を表示するには、特権 EXEC モードで **show interfaces rep detail** コマンドを使用します。

show interfaces [*interface-id*] **rep detail**

構文の説明

interface-id (任意) ポート ID を表示するために使用される物理インターフェイス。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース

変更内容

このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、1つ以上のセグメントまたは1つのインターフェイスに STCN を送信先するために、セグメントエッジポートで入力します。設定を確認するには、**show interfaces rep detail** 特権 EXEC コマンドを入力します。

次に、指定されたインターフェイスに関する REP 設定とステータスを表示する例を示します。

```
デバイス# show interfaces TenGigabitEthernet4/1 rep detail
```

```
TenGigabitEthernet4/1 REP enabled
Segment-id: 3 (Primary Edge)
PortID: 03010015FA66FF80
Preferred flag: No
Operational Link Status: TWO_WAY
Current Key: 02040015FA66FF804050
Port Role: Open
Blocked VLAN: <empty>
Admin-vlan: 1
Preempt Delay Timer: disabled
Configured Load-balancing Block Port: none
Configured Load-balancing Block VLAN: none
STCN Propagate to: none
LSL PDU rx: 999, tx: 652
HFL PDU rx: 0, tx: 0
BPA TLV rx: 500, tx: 4
BPA (STCN, LSL) TLV rx: 0, tx: 0
BPA (STCN, HFL) TLV rx: 0, tx: 0
EPA-ELECTION TLV rx: 6, tx: 5
EPA-COMMAND TLV rx: 0, tx: 0
EPA-INFO TLV rx: 135, tx: 136
```

show lacp

Link Aggregation Control Protocol (LACP) チャンネルグループ情報を表示するには、ユーザ EXEC モードで **show lacp** コマンドを使用します。

show lacp [*channel-group-number*] {**counters** | **internal** | **neighbor** | **sys-id**}

構文の説明

channel-group-number

counters トラフィック情報を表示します。

internal 内部情報を表示します。

neighbor ネイバーの情報を表示します。

sys-id LACP によって使用されるシステム識別子を表示します。システム識別子は、LACP システムプライオリティと device MAC アドレスで構成されています。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

ユーザ EXEC

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.6.1

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show lacp コマンドを入力すると、アクティブなチャンネルグループの情報が表示されます。特定のチャンネル情報を表示するには、チャンネルグループ番号を指定して **show lacp** コマンドを入力します。

チャンネルグループを指定しない場合は、すべてのチャンネルグループが表示されます。

channel-group-number を入力すると、**sys-id** 以外のすべてのキーワードでチャンネルグループを指定できます。

次の例では、**show lacp counters** ユーザ EXEC コマンドの出力を示します。次の表に、この出力で表示されるフィールドについて説明します。

デバイス> **show lacp counters**

Port	LACPDUs		Marker		Marker Response		LACPDUs	
	Sent	Recv	Sent	Recv	Sent	Recv	Pkts	Err

Channel group:1								
Gi2/0/1	19	10	0	0	0	0	0	0
Gi2/0/2	14	6	0	0	0	0	0	0

表 1: show lacp counters のフィールドの説明

フィールド	説明
LACPDUs Sent および Recv	ポートによって送受信された LACP パケット数
Marker Sent および Recv	ポートによって送受信された LACP Marker パケット数
Marker Response Sent および Recv	ポートによって送受信された LACP Marker 応答パケット数
LACPDUs Pkts および Err	ポートの LACP によって受信された、未知で不正なパケット数

次に、**show lacp internal** コマンドの出力例を示します。

```

デバイス> show lacp 1 internal
Flags: S - Device is requesting Slow LACPDUs
       F - Device is requesting Fast LACPDUs
       A - Device is in Active mode           P - Device is in Passive mode

```

Channel group 1

Port	Flags	State	LACP port Priority	Admin Key	Oper Key	Port Number	Port State
Gi2/0/1	SA	bndl	32768	0x3	0x3	0x4	0x3D
Gi2/0/2	SA	bndl	32768	0x3	0x3	0x5	0x3D

次の表に、出力されるフィールドの説明を示します。

表 2: show lacp internal のフィールドの説明

フィールド	説明
State	<p>特定のポートの状態。次に使用可能な値を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • - : ポートの状態は不明です。 • bndl : ポートがアグリゲータに接続され、他のポートとバンドルされています。 • susp : ポートが中断されている状態で、アグリゲータには接続されていません。 • hot-sby : ポートがホットスタンバイの状態です。 • indiv : ポートは他のポートとバンドルできません。 • indep : ポートは独立状態です。バンドルされていませんが、データトラフィックを処理することができます。この場合、LACP は相手側ポートで実行されていません。 • down : ポートがダウンしています。
LACP Port Priority	<p>ポートのプライオリティ設定。ハードウェアの制限により互換性のあるすべてのポートを集約できない場合、LACP はポートプライオリティを使用してポートをスタンバイモードにします。</p>
Admin Key	<p>ポートに割り当てられた管理用のキー。LACP は自動的に管理用のキー値を生成します (16 進数)。管理キーにより、他のポートとともに集約されるポートの機能が定義されます。ポートが他のポートと集約できるかどうかは、ポートの物理特性 (たとえば、データレートやデュプレックス機能) と設定に指定された制限によって決定されます。</p>
Oper Key	<p>ポートで使用される実行時の操作キー。LACP は自動的に値を生成します (16 進数)。</p>
Port Number	<p>ポート番号。</p>

フィールド	説明
Port State	<p>ポートの状態変数。1つのオクテット内で個々のビットとしてエンコードされ、次のような意味になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • bit0 : LACP のアクティビティ • bit1 : LACP のタイムアウト • bit2 : 集約 • bit3 : 同期 • bit4 : 収集 • bit5 : 配信 • bit6 : デフォルト • bit7 : 期限切れ <p>(注) 上のリストでは、bit7 が MSB で bit0 は LSB です。</p>

次に、**show lacp neighbor** コマンドの出力例を示します。

```

デバイス> show lacp neighbor
Flags: S - Device is sending Slow LACPDUs  F - Device is sending Fast LACPDUs
      A - Device is in Active mode          P - Device is in Passive mode

```

Channel group 3 neighbors

Partner's information:

Port	Partner System ID	Partner Port Number	Age	Partner Flags
Gi2/0/1	32768,0007.eb49.5e80	0xC	19s	SP
	LACP Partner Port Priority	Partner Oper Key	Partner Port State	
	32768	0x3	0x3C	

Partner's information:

Port	Partner System ID	Partner Port Number	Age	Partner Flags
Gi2/0/2	32768,0007.eb49.5e80	0xD	15s	SP
	LACP Partner Port Priority	Partner Oper Key	Partner Port State	
	32768	0x3	0x3C	

次に、**show lacp sys-id** コマンドの出力例を示します。

```

デバイス> show lacp sys-id
32765,0002.4b29.3a00

```


システム ID は、システムプライオリティおよびシステム MAC アドレスで構成されています。最初の 2 バイトはシステムプライオリティ、最後の 6 バイトはグローバルに管理されているシステム関連の個々の MAC アドレスです。

show pagp

ポート集約プロトコル (PAgP) のチャンネルグループ情報を表示するには、EXEC モードで **show pagp** コマンドを使用します。

show pagp [*channel-group-number*] {**counters** | **dual-active** | **internal** | **neighbor**}

構文の説明

channel-group-number

counters トラフィック情報を表示します。

dual-active デュアルアクティブステータスが表示されます。

internal 内部情報を表示します。

neighbor ネイバーの情報を表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ユーザ EXEC

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.6.1

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show pagp コマンドを入力すると、アクティブなチャンネルグループの情報が表示されます。非アクティブポートチャンネルの情報を表示するには、チャンネルグループ番号を指定して **show pagp** コマンドを入力します。

例

次に、**show pagp 1 counters** コマンドの出力例を示します。

```
デバイス> show pagp 1 counters
          Information          Flush
Port      Sent   Recv    Sent   Recv
-----
Channel group: 1
Gi1/0/1   45    42      0      0
Gi1/0/2   45    41      0      0
```

次に、**show pagp dual-active** コマンドの出力例を示します。

```
デバイス> show pagp dual-active
PAgP dual-active detection enabled: Yes
PAgP dual-active version: 1.1

Channel group 1
```

```

          Dual-Active   Partner
Port      Detect Capable Name
Gi1/0/1   No             Device
Gi1/0/2   No             Device
          Partner      Partner
          Port         Version
Gi3/0/3   Gi3/0/3             N/A
Gi3/0/4   Gi3/0/4             N/A

```

<output truncated>

次に、**show pagp 1 internal** コマンドの出力例を示します。

```

デバイス> show pagp 1 internal
Flags: S - Device is sending Slow hello.  C - Device is in Consistent state.
       A - Device is in Auto mode.
Timers: H - Hello timer is running.        Q - Quit timer is running.
       S - Switching timer is running.      I - Interface timer is running.

Channel group 1

```

Port	Flags	State	Timers	Hello Interval	Partner Count	PAGP Priority	Learning Method	Group Ifindex
Gi1/0/1	SC	U6/S7	H	30s	1	128	Any	16
Gi1/0/2	SC	U6/S7	H	30s	1	128	Any	16

次に、**show pagp 1 neighbor** コマンドの出力例を示します。

```

デバイス> show pagp 1 neighbor

Flags: S - Device is sending Slow hello.  C - Device is in Consistent state.
       A - Device is in Auto mode.          P - Device learns on physical port.

Channel group 1 neighbors

```

Port	Partner Name	Partner Device ID	Partner Port	Age	Flags	Partner Group Cap.
Gi1/0/1	device-p2	0002.4b29.4600	Gi01//1	9s	SC	10001
Gi1/0/2	device-p2	0002.4b29.4600	Gi1/0/2	24s	SC	10001

show platform etherchannel

プラットフォーム依存 EtherChannel 情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show platform etherchannel** コマンドを使用します。

```
show platform etherchannel channel-group-number {group-mask | load-balance mac src-mac dst-mac [ip src-ip dst-ip [port src-port dst-port]]} [switch switch-number]
```

構文の説明

channel-group-number チャンネルグループ番号。指定できる範囲は 1 ~ 128 です。

group-mask EtherChannel グループ マスクを表示します。

load-balance EtherChannel ロード バランシングのハッシュ アルゴリズムをテストします。

mac *src-mac*
dst-mac 送信元と宛先の MAC アドレスを指定します。

ip *src-ip* *dst-ip* (任意) 送信元と宛先の IP アドレスを指定します。

port *src-port*
dst-port (任意) 送信元と宛先のレイヤ ポート番号を指定します。

switch
switch-number (任意) スタック メンバを指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、テクニカルサポート担当者とともに問題解決を行う場合にだけ使用してください。

テクニカルサポート担当者がこのコマンドの使用を推奨した場合以外には使用しないでください。

show platform pm

プラットフォーム依存のポートマネージャ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show platform pm** コマンドを使用します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、テクニカルサポート担当者とともに問題解決を行う場合にだけ使用してください。

テクニカルサポート担当者がこのコマンドの使用を推奨した場合以外には使用しないでください。

show rep topology

1セグメントまたは全セグメントのREPトポロジ情報（セグメント内のプライマリおよびセカンドリエッジポートを含む）を表示するには、特権 EXEC モードで **show rep topology** コマンドを使用します。

show rep topology [**segment** *segment-id*] [**archive**] [**detail**]

構文の説明	segment <i>segment-id</i>	(任意) REP トポロジ情報を表示するセグメントを指定します。指定できる ID 範囲は 1 ~ 1024 です。
	archive	(任意) セグメントの前のトポロジを表示します。このキーワードは、リンク障害のトラブルシューティングに役立ちます。
	detail	(任意) REP トポロジの詳細情報を表示します。
コマンドモード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
		このコマンドが追加されました。

次に、show rep topology コマンドの出力例を示します。

デバイス# **show rep topology**

```

REP Segment 1
BridgeName      PortName      Edge Role
-----
10.64.106.63    Te5/4         Pri  Open
10.64.106.228  Te3/4         Open
10.64.106.228  Te3/3         Open
10.64.106.67   Te4/3         Open
10.64.106.67   Te4/4         Alt
10.64.106.63    Te4/4         Sec  Open

REP Segment 3
BridgeName      PortName      Edge Role
-----
10.64.106.63    Gi50/1        Pri  Open
SVT_3400_2      Gi0/3         Open
SVT_3400_2      Gi0/4         Open
10.64.106.68    Gi40/2        Open

```

```
10.64.106.68    Gi40/1    Open
10.64.106.63    Gi50/2    Sec Alt
```

次に、**show rep topology detail** コマンドの出力例を示します。

```
デバイス# show rep topology detail
```

```
REP Segment 1
10.64.106.63, Te5/4 (Primary Edge)
  Open Port, all vlans forwarding
  Bridge MAC: 0005.9b2e.1700
  Port Number: 010
  Port Priority: 000
  Neighbor Number: 1 / [-6]
10.64.106.228, Te3/4 (Intermediate)
  Open Port, all vlans forwarding
  Bridge MAC: 0005.9b1b.1f20
  Port Number: 010
  Port Priority: 000
  Neighbor Number: 2 / [-5]
10.64.106.228, Te3/3 (Intermediate)
  Open Port, all vlans forwarding
  Bridge MAC: 0005.9b1b.1f20
  Port Number: 00E
  Port Priority: 000
  Neighbor Number: 3 / [-4]
10.64.106.67, Te4/3 (Intermediate)
  Open Port, all vlans forwarding
  Bridge MAC: 0005.9b2e.1800
  Port Number: 008
  Port Priority: 000
  Neighbor Number: 4 / [-3]
10.64.106.67, Te4/4 (Intermediate)
  Alternate Port, some vlans blocked
  Bridge MAC: 0005.9b2e.1800
  Port Number: 00A
  Port Priority: 000
  Neighbor Number: 5 / [-2]
10.64.106.63, Te4/4 (Secondary Edge)
  Open Port, all vlans forwarding
  Bridge MAC: 0005.9b2e.1700
  Port Number: 00A
  Port Priority: 000
  Neighbor Number: 6 / [-1]
```

show uddl

すべてのポートまたは指定されたポートの単方向リンク検出 (UDLD) の管理ステータスおよび動作ステータスを表示するには、ユーザ EXEC モードで **show uddl** コマンドを使用します。

```
show uddl [Auto-Template | Capwap | GigabitEthernet | GroupVI | InternalInterface
| Loopback | Null | Port-channel | TenGigabitEthernet | Tunnel | Vlan]
interface_number
show uddl neighbors
```

構文の説明

Auto-Template	(任意) 自動テンプレート インターフェイスの UDLD 動作ステータスを表示します。範囲は 1 ~ 999 です。
Capwap	(任意) CAPWAP インターフェイスの UDLD 動作ステータスを表示します。指定できる範囲は 0 ~ 2147483647 です。
GigabitEthernet	(任意) GigabitEthernet インターフェイスの UDLD 動作ステータスを表示します。範囲は 0 ~ 9 です。
GroupVI	(任意) グループ仮想インターフェイスの UDLD 動作ステータスを表示します。範囲は 1 ~ 255 です。
InternalInterface	(任意) 内部インターフェイスの UDLD 動作ステータスを表示します。範囲は 0 ~ 9 です。
Loopback	(任意) ループバック インターフェイスの UDLD 動作ステータスを表示します。指定できる範囲は 0 ~ 2147483647 です。
Null	(任意) null インターフェイスの UDLD 動作ステータスを表示します。
Port-channel	(任意) イーサネット チャネル インターフェイスの UDLD 動作ステータスを表示します。有効な範囲は 1 ~ 128 です。
TenGigabitEthernet	(任意) 10 ギガビットイーサネット インターフェイスの UDLD 動作ステータスを表示します。範囲は 0 ~ 9 です。
Tunnel	(任意) トンネル インターフェイスの UDLD 動作ステータスを表示します。指定できる範囲は 0 ~ 2147483647 です。
Vlan	(任意) VLAN インターフェイスの UDLD 動作ステータスを表示します。指定できる範囲は 1 ~ 4095 です。

<i>interface-id</i>	(任意) インターフェイスの ID およびポート番号です。有効なインターフェイスとしては、物理ポート、VLAN、ポート チャネルなどがあります。
---------------------	--

neighbors	(任意) ネイバー情報だけを表示します。
------------------	----------------------

コマンドデフォルト	なし
-----------	----

コマンドモード	ユーザ EXEC
---------	----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン インターフェイス ID を入力しない場合は、すべてのインターフェイスの管理上および運用上の UDLD ステータスが表示されます。

次の例では、**show udld interface-id** コマンドの出力を示します。ここでは、UDLD はリンクの両端でイネーブルに設定されていて、リンクが双方向であることを UDLD が検出します。次の表に、この出力で表示されるフィールドについて説明します。

```

デバイス> show udld gigabitethernet2/0/1
Interface gi2/0/1
---
Port enable administrative configuration setting: Follows device default
Port enable operational state: Enabled
Current bidirectional state: Bidirectional
Current operational state: Advertisement - Single Neighbor detected
Message interval: 60
Time out interval: 5
Entry 1
Expiration time: 146
Device ID: 1
Current neighbor state: Bidirectional
Device name: Switch-A
Port ID: Gi2/0/1
Neighbor echo 1 device: Switch-B
Neighbor echo 1 port: Gi2/0/2
Message interval: 5
CDP Device name: Switch-A

```

表 3: *show udld* のフィールドの説明

フィールド	説明
Interface	UDLD に設定されたローカル デバイスのインターフェイス。

フィールド	説明
Port enable administrative configuration setting	ポートでの UDDL の設定方法。UDDL がイネーブルまたはディセーブルの場合、ポートのイネーブル設定は運用上のイネーブルステートと同じです。それ以外の場合、イネーブル動作設定は、グローバルなイネーブル設定によって決まります。
Port enable operational state	このポートで UDDL が実際に稼働しているかどうかを示す動作ステート。
Current bidirectional state	リンクの双方向ステート。リンクがダウンしているか、または UDDL 非対応デバイスに接続されている場合は、unknown ステートが表示されます。リンクが UDDL 対応デバイスに通常どおり双方向接続されている場合は、bidirectional ステートが表示されます。その他の値が表示されている場合は、正しく配線されていません。
Current operational state	UDDL ステート マシンの現在のフェーズ。通常の双方向リンクの場合、多くは、ステートマシンはアダプタイズフェーズです。
Message interval	ローカルデバイスからアダプタイズメッセージを送信する頻度。単位は秒です。
Time out interval	検出ウィンドウ中に、UDDL がネイバー デバイスからのエコーを待機する期間 (秒)。
Entry 1	最初のキャッシュ エントリの情報。このエントリには、ネイバーから受信されたエコー情報のコピーが格納されます。
Expiration time	このキャッシュ エントリの期限が切れるまでの存続期間 (秒)。
Device ID	ネイバー デバイスの ID。
Current neighbor state	ネイバーの現在の状態。ローカル デバイスおよびネイバー装置の両方で UDDL が通常どおり稼働している場合、ネイバー ステートおよびローカル ステートは双方向です。リンクがダウンしているか、またはネイバーが UDDL 対応でない場合、キャッシュ エントリは表示されません。

フィールド	説明
Device name	装置名またはネイバーのシステム シリアル番号。装置名が設定されていないか、またはデフォルト (Switch) に設定されている場合、システムのシリアル番号が表示されます。
Port ID	UDLD に対してイネーブルに設定されたネイバーのポート ID。
Neighbor echo 1 device	エコーの送信元であるネイバーのネイバー デバイス名。
Neighbor echo 1 port	エコーの送信元であるネイバーのポート番号 ID。
Message interval	ネイバーがアドバタイズ メッセージを送信する速度 (秒)。
CDP device name	CDP デバイス名またはシステム シリアル番号。装置名が設定されていないか、またはデフォルト (Switch) に設定されている場合、システムのシリアル番号が表示されます。

次に、**show udd neighbors** コマンドの出力例を示します。

```

デバイス# show udd neighbors
Port      Device Name      Device ID  Port-ID  OperState
-----
Gi2/0/1   Switch-A         1         Gi2/0/1  Bidirectional
Gi3/0/1   Switch-A         2         Gi3/0/1  Bidirectional

```

switchport

レイヤ3モードになっているインターフェイスをレイヤ2設定用のレイヤ2モードに配置するには、インターフェイスコンフィギュレーションモードで **switchport** コマンドを使用します。インターフェイスをレイヤ3モードに配置するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

switchport
no switchport

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトでは、すべてのインターフェイスがレイヤ2モードです。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

インターフェイスをルーテッドインターフェイスの状態に設定して、レイヤ2の設定をすべて削除するには、**no switchport** コマンド（パラメータの指定なし）を使用します。このコマンドは、ルーテッドポートにIPアドレスを割り当てる前に使用する必要があります。



(注) このコマンドは、LAN Base 機能セットを実行している devices ではサポートされません。

no switchport コマンドを入力するとポートがシャットダウンされて、その後再び有効になります。その際に、ポートの接続先のデバイスでメッセージが生成されることがあります。

レイヤ2モードからレイヤ3モード（またはその逆）にインターフェイスを変更すると、影響を受けたインターフェイスに関連する以前の設定情報が失われる可能性があり、インターフェイスがデフォルト設定に戻ります。



(注) インターフェイスがレイヤ3インターフェイスとして設定されている場合、最初に **switchport** コマンドを入力して、そのインターフェイスをレイヤ2ポートとして設定する必要があります。その後、**switchport access vlan** コマンドおよび **switchport mode** コマンドを入力します。

switchport コマンドは、シスコルーテッドポートをサポートしないプラットフォームでは使用できません。このようなプラットフォーム上のすべての物理ポートは、レイヤ2のスイッチドインターフェイスとして想定されます。

インターフェイスのポートステータスを確認するには、**show running-config** 特権 EXEC コマンドを入力します。

例

次の例では、インターフェイスをレイヤ 2 ポートとして運用することを中止し、シスコのルーテッドポートにする方法を示します。

```
デバイス(config-if)# no switchport
```

次の例では、ポートのインターフェイスをシスコのルーテッドポートとして運用することを中止し、レイヤ 2 のスイッチドインターフェイスに変更する方法を示します。

```
デバイス(config-if)# switchport
```

switchport access vlan

ポートをスタティック アクセス ポートとして設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **switchport access vlan** コマンドを使用します。device のアクセス モードをデフォルトの VLAN モードにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

switchport access vlan {vlan-id}
no switchport access vlan

構文の説明

vlan-id アクセス モード VLAN の VLAN ID。範囲は 1~4094。

コマンド デフォルト

デフォルトのアクセス VLAN およびトランク インターフェイス ネイティブ VLAN は、プラットフォームまたはインターフェイス ハードウェアに対応したデフォルト VLAN です。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

switchport access vlan コマンドを有効にするには、事前にポートをアクセス モードにする必要があります。

スイッチポートのモードが **access vlan** *vlan-id* に設定されている場合、ポートは指定された VLAN のメンバとして動作します。アクセス ポートを割り当てることができるのは、1つの VLAN だけです。

no switchport access コマンドを使用すると、アクセス モード VLAN がデバイスに適したデフォルト VLAN にリセットされます。

例

次の例では、アクセス モードで動作するスイッチド ポート インターフェイスが、デフォルト VLAN ではなく VLAN 2 で動作するように変更します。

```
デバイス(config-if)# switchport access vlan 2
```

switchport mode

ポートの VLAN メンバーシップモードを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **switchport mode** コマンドを使用します。モードをデバイスに適したデフォルト設定にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
switchport mode {access | dynamic | {auto | desirable} | trunk}
noswitchport mode {access | dynamic | {auto | desirable} | trunk}
```

構文の説明

access	ポートをアクセス モードに設定します (switchport access vlan インターフェイス コンフィギュレーションコマンドの設定に応じて、スタティックアクセスまたはダイナミック アクセスのいずれか)。ポートは無条件にアクセスするように設定され、非カプセル化 (タグなし) フレームを送受信する単一の非トランク VLAN インターフェイスとして動作します。アクセス ポートを割り当てることができるのは、1 つの VLAN だけです。
dynamic auto	ポート トランキング モードのダイナミック パラメータを auto に設定して、インターフェイスがリンクをトランク リンクに変換するように指定します。これがデフォルトのスイッチポート モードになります。
dynamic desirable	ポート トランキング モードのダイナミック パラメータを desirable に設定して、インターフェイスがリンクをトランク リンクにアクティブに変換するように指定します。
trunk	ポートを無条件にトランクに設定します。ポートはトランキング VLAN レイヤ 2 インターフェイスです。ポートは、送信元の VLAN を識別するカプセル化 (タグ付き) フレームを送受信します。トランクは、2 つの devices 間、または device とルータ間のポイントツーポイント リンクです。

コマンドデフォルト デフォルト モードは **dynamic auto** です。

コマンドモード インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

access または **trunk** キーワードによる設定が有効となるのは、**switchport mode** コマンドを使用して適切なモードでポートを設定した場合のみです。スタティックアクセスおよびトランクの設定は保存されますが、同時にアクティブにできるのはいずれかの設定だけです。

access モードを開始すると、インターフェイスは永続的な非トランキングモードになり、隣接インターフェイスがリンクから非トランク リンクへの変換に合意しない場合でも、この変換を行うようにネゴシエートします。

trunk モードを開始すると、インターフェイスは永続的なトランキングモードになり、接続先のインターフェイスがリンクからトランクリンクへの変換に合意しない場合でも、この変換を行うようにネゴシエートします。

dynamic auto モードを開始すると、隣接インターフェイスが **trunk** または **desirable** モードに設定された場合に、インターフェイスはリンクをトランクリンクに変換します。

dynamic desirable モードを開始すると、隣接インターフェイスが **trunk**、**desirable**、または **auto** モードに設定された場合に、インターフェイスはトランクインターフェイスになります。

トランキングを自動ネゴシエーションするには、インターフェイスが同じ VLAN トランキングプロトコル (VTP) ドメインに存在する必要があります。トランク ネゴシエーションは、ポイントツーポイントプロトコルである Dynamic Trunking Protocol (DTP) によって管理されます。ただし、一部のインターネットワーキングデバイスによって DTP フレームが不正に転送されて、矛盾した設定となる場合があります。この問題を避けるには、DTP をサポートしないデバイスに接続されたインターフェイスが DTP フレームを転送しないように設定し、DTP をオフにします。

- これらのリンク上でトランキングを行わない場合は、**switchport mode access** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して、トランキングをディセーブルにします。
- DTP をサポートしていないデバイスへのトランキングをイネーブルにするには、**switchport mode trunk** および **switchport nonegotiate** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して、インターフェイスがトランクになっても DTP フレームを生成しないように設定します。

アクセスポートとトランクポートは、互いに排他的な関係にあります。

IEEE 802.1X 機能は、次の方法でスイッチポートモードに作用します。

- トランクポートで IEEE 802.1X をイネーブルにしようとする、エラーメッセージが表示され、IEEE 802.1X はイネーブルになりません。IEEE 802.1X 対応ポートのモードをトランクに変更しようとしても、ポートモードは変更されません。
- ポート設定で IEEE 802.1X を **dynamic auto** または **dynamic desirable** にイネーブルにしようとする、エラーメッセージが表示され、IEEE 802.1X はイネーブルになりません。IEEE 802.1X 対応ポートのモードを **dynamic auto** または **dynamic desirable** に変更しようとしても、ポートモードは変更されません。
- ダイナミックアクセス (VLAN Query Protocol (VQP)) ポートで IEEE 802.1X をイネーブルにしようとする、エラーメッセージが表示され、IEEE 802.1X はイネーブルになりません。IEEE 802.1X 対応ポートを変更してダイナミック VLAN を割り当てようとしても、エラーメッセージが表示され、VLAN 設定は変更されません。

設定を確認するには、**show interfaces interface-id switchport** 特権 EXEC コマンドを入力して、*Administrative Mode* 行と *Operational Mode* 行の情報を調べます。

例

次の例では、ポートをアクセスモードに設定する方法を示します。

```
デバイス(config)# interface gigabitethernet2/0/1
デバイス(config-if)# switchport mode access
```


次の例では、ポートを dynamic desirable モードに設定する方法を示します。

```
デバイス(config)# interface gigabitethernet2/0/1  
デバイス(config-if)# switchport mode dynamic desirable
```

次の例では、ポートをトランク モードに設定する方法を示します。

```
デバイス(config)# interface gigabitethernet2/0/1  
デバイス(config-if)# switchport mode trunk
```

switchport nonegotiate

ダイナミック トランキングプロトコル (DTP) ネゴシエーションパケットがレイヤ2インターフェイス上で送信されないように指定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **switchport nonegotiate** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

switchport nonegotiate
no switchport nonegotiate

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトでは、トランキング ステータスを学習するために、DTP ネゴシエーションを使用します。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

no switchport nonegotiate コマンドは **nonegotiate** ステータスを解除します。

このコマンドが有効なのは、インターフェイス スイッチポート モードがアクセスまたはトランク (**switchport mode access** または **switchport mode trunk** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドで設定) の場合だけです。dynamic (auto または desirable) モードでこのコマンドを実行しようとする、エラーが返されます。

DTP をサポートしないインターネットワーキング デバイスでは、DTP フレームが正しく転送されず、設定に矛盾が生じることがあります。この問題を回避するには、**switchport nonegotiate** コマンドを使用して DTP をオフにし、DTP をサポートしていないデバイスに接続されたインターフェイスが DTP フレームを転送しないように設定します。

switchport nonegotiate コマンドを入力した場合、このインターフェイスでは DTP ネゴシエーションパケットが送信されません。デバイスがトランキングを実行するかどうかは、**mode** パラメータ (**access** または **trunk**.) によって決まります。

- これらのリンク上でトランキングを行わない場合は、**switchport mode access** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して、トランキングをディセーブルにします。
- DTP をサポートしていないデバイス上のトランキングをイネーブルにするには、**switchport mode trunk** および **switchport nonegotiate** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して、インターフェイスがトランクになっても DTP フレームを生成しないように設定します。

次の例では、ポートに対してトランキングモードのネゴシエートを制限し、（モードの設定に応じて）トランクポートまたはアクセスポートとして動作させる方法を示します。

```
デバイス(config)# interface gigabitethernet2/0/1  
デバイス(config-if)# switchport nonegotiate
```

設定を確認するには、**show interfaces interface-id switchport** 特権 EXEC コマンドを入力します。

switchport voice vlan

ポートに音声 VLAN を設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **switchport voice vlan** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
switchport voice vlan {vlan-id | dot1p | none | untagged | name vlan_name}
no switchport voice vlan
```

構文の説明	
vlan-id	音声トラフィックに使用する VLAN。指定できる範囲は 1～4094 です。デフォルトでは、Cisco IP Phone は IEEE 802.1Q プライオリティ 5 を使用して音声トラフィックを転送します。
dot1p	IEEE 802.1p プライオリティ タギングおよび VLAN 0（ネイティブ VLAN）を使用するように電話機を設定します。デフォルトでは、Cisco IP Phone は IEEE 802.1p プライオリティ 5 を使用して音声トラフィックを転送します。
none	音声 VLAN に関して IP Phone に指示しません。IP Phone のキーパッドから入力された設定を使用します。
untagged	タグなしの音声トラフィックを送信するように IP Phone を設定します。これが IP Phone のデフォルト設定になります。
name vlan_name	（任意）音声トラフィックに使用する VLAN 名を指定します。最大 128 文字を入力できます。

コマンド デフォルト デフォルトでは、IP Phone を自動設定しません（**none**）。
デフォルトでは、IP Phone はフレームにタグを付けません。

コマンド モード インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。
		音声 VLAN に VLAN 名を指定するオプション。「 name 」キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン レイヤ 2 アクセス ポート上で音声 VLAN を設定する必要があります。

device の Cisco IP 電話に接続しているスイッチポート上の Cisco Discovery Protocol (CDP) をイネーブルにし、Cisco IP 電話に設定情報を送信する必要があります。デフォルトでは、CDP はインターフェイス上でグローバルにイネーブルです。

VLAN ID を入力すると、IP Phone は IEEE 802.1Q フレームの音声トラフィックを指定された VLAN ID タグ付きで転送します。device は IEEE 802.1Q 音声トラフィックを音声 VLAN に入れます。

dot1p、**none**、または **untagged** を選択した場合、device は指定の音声トラフィックをアクセス VLAN に入れます。

すべての設定で、音声トラフィックはレイヤ 2 の IP precedence 値を運びます。音声トラフィックのデフォルトは 5 です。

音声 VLAN が設定されたインターフェイス上でポートセキュリティをイネーブルにする場合は、ポートの最大セキュアアドレス許容数を 2 に設定します。ポートを Cisco IP Phone に接続する場合は、IP Phone に MAC アドレスが 1 つ必要です。Cisco IP Phone のアドレスは音声 VLAN 上で学習されますが、アクセス VLAN 上では学習されません。1 台の PC を Cisco IP Phone に接続する場合、MAC アドレスの追加は必要ありません。2 台以上の PC を Cisco IP Phone に接続する場合、各 PC に 1 つ、さらに Cisco IP Phone に 1 つ割り当てるよう十分なセキュアアドレスを設定する必要があります。

アクセス VLAN で任意のポートセキュリティタイプがイネーブルにされた場合、音声 VLAN でダイナミックポートセキュリティは自動的にイネーブルになります。

音声 VLAN には、スタティックセキュア MAC アドレスを設定できません。

音声 VLAN を設定すると、PortFast 機能が自動的にイネーブルになります。音声 VLAN をディセーブルにしても、PortFast 機能は自動的にディセーブルになりません。

次の例では、最初に VLANID と VLAN 名を対応させて、その情報を VLAN データベースに格納し、その後、アクセスモードにあるインターフェイス上の VLAN を設定します（名前を使用）。設定を確認するには、特権 EXEC コマンドで **show interfaces interface-id switchport** を入力して、Voice VLAN: 行の情報を調べます。

パート 1 - VLAN データベースに入力する

```

デバイス# configure terminal
デバイス(config)# vlan 55
デバイス(config-vlan)# name test
デバイス(config-vlan)# end
デバイス#

```

パート 2 - VLAN データベースを確認する

```

デバイス# show vlan id 55
VLAN Name Status Ports
-----
55 test active
VLAN Type SAID MTU Parent RingNo BridgeNo Stp BrdgMode Trans1 Trans2
-----
55 enet 100055 1500 - - - - - 0 0
Remote SPAN VLAN
-----
Disabled
Primary Secondary Type Ports
-----

```

パート 3 - VLAN 名を使用して VLAN をインターフェイスに割り当てる

```
デバイス# configure terminal
デバイス(config)# interface gigabitethernet3/1/1
デバイス(config-if)# switchport mode access
デバイス(config-if)# switchport voice vlan name test
デバイス(config-if)# end
デバイス#
```

パート 4 - 設定を確認する

```
デバイス# show running-config
interface gigabitethernet3/1/1
Building configuration...
Current configuration : 113 bytes
!
interface GigabitEthernet3/1/1
switchport voice vlan 55
switchport mode access
Switch#
```

パート 5 - インターフェイス スイッチポートでも確認できる

```
デバイス# show interface GigabitEthernet3/1/1 switchport
Name: Gi3/1/1
Switchport: Enabled
Administrative Mode: static access
Operational Mode: static access
Administrative Trunking Encapsulation: dot1q
Operational Trunking Encapsulation: native
Negotiation of Trunking: Off
Access Mode VLAN: 1 (default)
Trunking Native Mode VLAN: 1 (default)
Administrative Native VLAN tagging: enabled
Voice VLAN: 55 (test)
Administrative private-vlan host-association: none
Administrative private-vlan mapping: none
Administrative private-vlan trunk native VLAN: none
Administrative private-vlan trunk Native VLAN tagging: enabled
Administrative private-vlan trunk encapsulation: dot1q
Administrative private-vlan trunk normal VLANs: none
Administrative private-vlan trunk associations: none
Administrative private-vlan trunk mappings: none
Operational private-vlan: none
Trunking VLANs Enabled: ALL
Pruning VLANs Enabled: 2-1001
Capture Mode Disabled
Capture VLANs Allowed: ALL
Unknown unicast blocked: disabled
Unknown multicast blocked: disabled
Appliance trust: none
デバイス#
```

udld

単方向リンク検出 (UDLD) で、アグレッシブモードまたは通常モードをイネーブルにし、設定可能なメッセージタイマーの時間を設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **udld** コマンドを使用します。すべての光ファイバポート上でアグレッシブモード UDLD または通常モード UDLD をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
udld {aggressive|enable|message time message-timer-interval}
no udld {aggressive|enable|message}
```

構文の説明

aggressive	すべての光ファイバインターフェイスにおいて、アグレッシブモードで UDLD をイネーブルにします。
enable	すべての光ファイバインターフェイスにおいて、通常モードで UDLD をイネーブルにします。
message time <i>message-timer-interval</i>	アダプタイズメントフェーズにあり、双方向と判別されたポートにおける UDLD プロブ メッセージ間の時間間隔を設定します。指定できる範囲は 1 ~ 90 秒です。デフォルトは 15 秒です。

コマンドデフォルト

すべてのインターフェイスで UDLD はディセーブルです。
メッセージタイマーは 15 秒に設定されます。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

UDLD は、2 つの動作モードをサポートしています。通常 (デフォルト) とアグレッシブです。ノーマルモードでは、UDLD は、光ファイバ接続において誤って接続されたインターフェイスによる単一方向リンクを検出します。アグレッシブモードでは、UDLD はまた、光ファイバおよびツイストペアリンクの単一方向トラフィックによる単一方向リンク、および光ファイバリンクにおいて誤って接続されたインターフェイスによる単一方向リンクを検出します。通常モードおよびアグレッシブモードについては、*Catalyst 2960-X スイッチ Layer 2 コンフィギュレーションガイド Catalyst 2960-XR Switch Layer 2 Configuration Guide* を参照してください。

プローブ パケット間のメッセージ時間を変更する場合、検出速度と CPU 負荷との折り合いをつけることとなります。時間を減少させると、検出応答を高速にすることができますが、CPU の負荷も高くなります。

このコマンドが作用するのは、光ファイバインターフェイスだけです。他のインターフェイスタイプで UDLD をイネーブルにする場合は、**udld** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次のコマンドを使用して、UDLDによってシャットダウンされたインターフェイスをリセットできます。

- **udld reset** 特権 EXEC コマンド：UDLD によってシャットダウンされたすべてのインターフェイスをリセットします。
- **shutdown** および **no shutdown** インターフェイス コンフィギュレーション モード コマンド。
- **no udld enable** グローバル コンフィギュレーション コマンドの後に **udld {aggressive | enable}** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力：グローバルに UDLD を再度イネーブルにします。
- **no udld port** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドの後に **udld port** または **udld port aggressive** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力：指定したインターフェイスで UDLD を再度イネーブルにします。
- **errdisable recovery cause udld** および **errdisable recovery interval interval** グローバル コンフィギュレーション コマンド：自動的に UDLD error-disabled ステートから回復します。

次の例では、すべての光ファイバインターフェイスでUDLDをイネーブルにする方法を示します。

```
デバイス(config)# udld enable
```

設定を確認するには、**show udld** 特権 EXEC コマンドを入力します。

udld port

個々のインターフェイスで単方向リンク検出 (UDLD) をイネーブルにするか、または光ファイバインターフェイスが **udld** グローバルコンフィギュレーション コマンドによってイネーブルになるのを防ぐには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **udld port** コマンドを使用します。 **udld** グローバル コンフィギュレーション コマンド設定に戻すか、または非光ファイバポートで入力された場合に UDLD をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

udld port [aggressive]

no udld port [aggressive]

構文の説明

aggressive (任意) 指定されたインターフェイスにおいて、アグレッシブ モードで UDLD をイネーブルにします。

コマンド デフォルト

光ファイバインターフェイスでは、UDLD はディセーブルになっていますが、光ファイバインターフェイスは、**udld enable** または **udld aggressive** グローバル コンフィギュレーション コマンドのステートに応じて UDLD をイネーブルにします。

非光ファイバインターフェイスでは、UDLD はディセーブルです。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.6.1

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

UDLD 対応ポートが別の device の UDLD 非対応ポートに接続されている場合、このポートは単一方向リンクを検出できません。

UDLD は、2つの動作モードをサポートしています。通常 (デフォルト) とアグレッシブです。ノーマルモードでは、UDLD は、光ファイバ接続において誤って接続されたインターフェイスによる単一方向リンクを検出します。アグレッシブ モードでは、UDLD はまた、光ファイバおよびツイストペアリンクの単一方向トラフィックによる単一方向リンク、および光ファイバリンクにおいて誤って接続されたインターフェイスによる単一方向リンクを検出します。

UDLD を通常モードでイネーブルにするには、**udld port** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。UDLD をアグレッシブモードでイネーブルにするには、**udld port aggressive** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

UDLD の制御を **udld enable** グローバル コンフィギュレーション コマンドに戻したり、UDLD を非光ファイバポートでディセーブルにしたりする場合は、光ファイバポートで **no udld port** コマンドを使用します。

udld enable または **udld aggressive** グローバル コンフィギュレーション コマンドの設定を上書きする場合は、光ファイバポートで **udld port aggressive** コマンドを使用します。この設定を削除して UDLD イネーブル化の制御を **udld** グローバル コンフィギュレーション コマンドに戻したり、UDLD を非光ファイバポートでディセーブルにしたりする場合は、光ファイバポートで **no** 形式を使用します。

UDLD によってシャットダウンされたインターフェイスをリセットするのに、次のコマンドを使用します。

- **udld reset** 特権 EXEC コマンド：UDLD によってシャットダウンされたすべてのインターフェイスをリセットします。
- **shutdown** および **no shutdown** インターフェイス コンフィギュレーション モード コマンド。
- **no udld enable** グローバル コンフィギュレーション コマンドの後に **udld {aggressive | enable}** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力：グローバルに UDLD を再度イネーブルにします。
- **no udld port** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドの後に **udld port** または **udld port aggressive** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力：指定したインターフェイスで UDLD を再度イネーブルにします。
- **errdisable recovery cause udld** および **errdisable recovery interval interval** グローバル コンフィギュレーション コマンド：自動的に UDLD error-disabled ステートから回復します。

次の例では、ポート上で UDLD をイネーブルにする方法を示します。

```
デバイス(config)# interface gigabitethernet6/0/1
デバイス(config-if)# udld port
```

次の例では、**udld** グローバル コンフィギュレーション コマンドの設定に関係なく、光ファイバインターフェイス上で UDLD をディセーブルにする方法を示します。

```
デバイス(config)# interface gigabitethernet6/0/1
デバイス(config-if)# no udld port
```

設定を確認するには、**show running-config** または **show udld interface** 特権 EXEC コマンドを入力します。

udld reset

単方向リンク検出 (UDLD) によりディセーブルにされたインターフェイスをすべてリセットし、インターフェイスのトラフィックを再開させるには、特権 EXEC モードで **udld reset** コマンドを使用します (イネーブルの場合には、スパニングツリー、ポート集約プロトコル (PAgP)、ダイナミック トランッキング プロトコル (DTP) などの他の機能を介することで有効になります)。

udld reset

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

インターフェイスの設定で、UDLD がまだイネーブルである場合、これらのポートは再び UDLD の稼働を開始し、問題が修正されていない場合には同じ理由でディセーブルになります。

次の例では、UDLD によってディセーブルにされたすべてのインターフェイスをリセットする方法を示します。

```
デバイス# udld reset
1 ports shutdown by UDLD were reset.
```

